

移動式クレーンを起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2022年）

年	月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
2022	1	8 ～ 10	既設排水路の嵩上げのため、歩道上において、被災者がクレーン機能付きドラグ・ショベルで、生コンクリートが入ったホッパーを吊り、コンクリート打設作業を行っていたところ、当該ドラグ・ショベルが転倒し、歩道下の擁壁と当該ドラグ・ショベルに挟まれて死亡したものの。	030110	2	10～ 29
2022	2	16 ～ 18	移動式クレーンを使用して荷を吊っていた際、移動式クレーンが転倒した。被災者は吊っている荷の玉外し作業をするため船台上にいたところ、転倒した移動式クレーンのジブが当たり被災したものの。	011501	6	100 ～ 299
2022	3	10 ～ 12	被災者は中古金属加工機械の売買業の営業。自社倉庫兼作業場に出張し、仕入れ商品を積載形トラッククレーンで運んできた業者が倉庫の床の指定位置に置く納品に立ち会っていた。業者の運転者が荷台の商品を地切りする前に荷台周囲を回り安全確認中、物音を聞き見に行く と車両近くの床に被災者が倒れていた。意識不明で搬送後、頭蓋骨骨折と脳挫傷（転落転倒が原因）で翌日死亡。	080109	1	1～9
2022	4	8 ～ 10	クレーン機能を備えた車両系建設機械で、トラックへU字溝を積込むクレーン作業中に、同クレーンオペレーターが運転席で落とした飴を拾おうとした際に袖が触れる等の意図しない操作により、バケットが前方に動いたため、オペレーターが元の位置に戻す操作を行ったところ、バケットが被災者に激突した。	030109	6	1～9
			放水路内の点検に使用する高所作業車（重量0.98トン）をトラッククレーン（吊り上げ荷重2.6トン）を使い放水路底に吊り下ろす			

2022	5	10 ～ 12	作業中、トラッククレーンが横転し、すぐ横の放水路（深さ16.4 m）底に転落。その際、トラックの荷台上で補助作業をしていた被災者及びトラックの運転席側キャビン後ろにある操作レバーでクレーンの運転をしていた関連会社所属労働者がトラックと共に転落、死亡した。	170209	2	1～9
2022	5	10 ～ 12	放水路内の点検に使用する高所作業車（重量0.98トン）をトラッククレーン（吊り上げ荷重2.6トン）を使い放水路底に吊り下ろす作業中、トラッククレーンが横転し、すぐ横の放水路（深さ16.4 m）底に転落。その際、トラックの運転席側キャビン後ろにある操作レバーでクレーンの運転をしていた被災者及びトラックの荷台上で補助作業をしていた関連会社所属労働者がトラックと共に転落、死亡した。	170209	2	1～9
2022	8	8 ～ 10	一次下請の労働者である被災労働者が、岸壁に設置されていた型枠のボルトを潜水して緩める作業を行っていた際、浮きクレーンを作業位置に配置するため、元請の作業員が係船のロープをウインチで調整していたところ、ロープが緩み、被災労働者は浮きクレーンと岸壁の間に体を挟まれ、腹部打撃による多臓器損傷他のため死亡したものの。	030111	7	10～ 29
2022	9	10 ～ 12	被災者は建設資材（スロープの鉄材）を会社から災害発生場所まで積載型トラッククレーンで運搬する業務に従事していた。被災者は災害発生場所で荷降ろしするため、積載型トラッククレーンの荷台と当該資材を結束していたバンドを取り外した後に荷台に昇って、無線操作で積載型トラッククレーンを操作したときにフックが当該資材に接触して倒れて被災者とともに地上に落下した。	040301	4	10～ 29
2022	11	14 ～ 16	被災者は荷台に設置されたウインチのワイヤーロープの交換作業を行うにあたり、積載型トラッククレーンのアウトリガーを伸ばして車体の下に入り込み、回転していたPTO（エンジンからクレーンの動力を取り出す装置）のドライブシャフトに、被災者の着用していた衣服が巻き込まれた状態で発見され、その後救出されたものの搬送先の病	030199	7	1～9

			院で出血性ショックにより死亡したものの。			
2022	12	16 ～ 18	現場が終了し、ボーリング工2名が2次下請が提供するトラッククレーンでボーリング調査の資材等を積載して帰宅する途中で、車4台が絡む玉突き事故に巻き込まれて、運転手が死亡し、同乗者が負傷し休業した。	030111	17	30～ 49
2021	5	8 ～ 10	災害発生当日、被災者は部下の運転する移動式クレーン（65tラフタークレーン）の前輪の異常について点検をするため、当該移動式クレーンのアウトリガーを張り出し車体を浮かせた状態で、左前輪と車体の間に立ち入り部下にハンドルを戻すよう指示し、前輪が動いた時に車体の間（20cm）に挟まり胸部を強く圧迫され死亡した。	80409	7	50～ 99
2021	6	6 ～ 8	雨水管・ますの布設工事現場において、土留め壁として使用していた敷鉄板（長さ3m、重さ約800kg）をクレーン機能付きドラグ・ショベルにて吊り上げ、仮置き場に降ろそうと旋回したところ、途中で敷鉄板が地面に接触したことで玉掛用つりチェーンのフックから敷鉄板が外れ、付近で別作業を行っていた被災者が下敷きになったものの。	30110	4	30～ 49
2021	7	12 ～ 14	工事現場で使用されていたタイヤ洗浄機の引き取り作業を依頼されたため、ラフタークレーンを運転して現地に向かい、現地においてトラック荷台への積み込み作業を終えた後、自社（木留リース）へ帰るため村道を走行中に、緩やかな右下りカーブを通りかかった所でバランスを崩して横転、ガードレールに激突して停車した。被災者は、運転席上部のフレームに頭を強打するなど、頭部外傷により死亡したものの。	30309	17	1～9
2021	7	16 ～ 18	墓地改修工事にて、被災者がカニクレーンを操作し、墓地出入り口階段手前まで移動させていたところ、当該階段からカニクレーンが落ち、階下に停めてあったユニッククレーンと落ちてきたカニクレーンの間に挟まれて死亡したものの。	30309	7	1～9
			解体工事現場において、被災者1名で、当該工事で使用していた防音			

2021	8	10 ～ 12	パネル50枚（重量約500Kg）を木製パレット上に載せ、パレットの下側に単管パイプを通し、その単管パイプの両端にナイロンスリングベルトを掛けて積載型移動式クレーンで吊り、荷台へ積み込む作業をしていたところ、何らかの原因で防音パネルが傾き、被災者が当該パネルと地上に積んであった足場板材の間に胸部を挟まれ、死亡した。	30209	6	10～ 29
2021	9	8 ～ 10	豪雨災害復旧工事現場において、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.9トン）で、栗石を詰めたネット（重さ1.7トン）をつり上げて旋回中に、当該積載型トラッククレーンが助手席側に倒れ、操作者が地面との間に挟まれたもの。	30199	7	1～9
2021	9	10 ～ 12	代表者1名及び同僚2名の計3名が移動式クレーン（つり上げ荷重50t）の不具合の確認作業を行っているのを被災者は近くで見っていた。同僚1名が移動式クレーンの左後部に登り、油圧計を取り付ける準備をしていたところ、後ろから「ドスン」と音がしたため、振り返ると移動式クレーンの左側後輪の傍に被災者が倒れていた。	11702	1	1～9
2021	10	12 ～ 14	林道脇の土砂崩壊地の災害復旧工事で法面に吹き付ける培養土が入ったフレコンバッグを、横付けした2機の移動式クレーン間で移し替えていたところ、地上1.2mの荷台上で玉掛作業に従事していた被災者が地面に墜落し、頸椎骨折で災害発生当日に死亡した。	30199	1	50～ 99
2021	11	16 ～ 18	伐採作業中に、移動式クレーンに設置された搬器に乗り、高さ16.2mの位置でチェーンソーを用いて伐採を行っていたところ当該搬器より墜落し同日死亡したものの。	30199	1	1～9
2021	12	14 ～ 16	被災者が、造園作業先の敷地内において車両積載型トラッククレーン（以下「トラック」という。）で移動中、当該トラックの運転席ドアを開け、身を乗り出しながら当該トラックを後退させていた際、近くにあった木に運転席ドアが衝突し、被災者は運転席ドアと車体の間に挟まれ、窒息死した（被災状況の詳細が確認できていないため、概要は推測。）。	60101	7	1～9

2020	1	14 ～ 16	土止支保工部材（H鋼を連結したもの）の小バラシ作業をしていたところ、移動式クレーンにてつり上げ中であったプレートが同部材の下（地面が砂利に覆われていたため、隙間があった）に入り込んだことにより同部材が被災者側に倒れ、隣接の土止支保工部材との間に挟まれた。	30199	7	10～ 29
2020	1	16 ～ 18	浮きクレーンのクレーン部解体作業中、クレーンのフレームに吊り下げ固定されているカウンターウェイト（28t）の固定用ボルトを溶断して外したところ、当該カウンターウェイトが落下し被災者2名に接触、うち1名が死亡したものの。	80409	4	10～ 29
2020	1	8 ～ 10	銀行研修所屋根・防水改修工事において、ホイールクレーンの補助ジブの組立作業を一人で行っていた被災者（オペ付きリースとして入場）が、同クレーン車体東側で頭部から出血した状態で倒れていたところを発見されたもの。被災者は災害発生後から意識不明の状態が続いたが、後日死亡した。	30209	1	10～ 29
2020	2	6 ～ 8	被災者はユニック車にLPガスボンベを積んで工場に入場していたが、午前、当該ユニック車の足元で血を流して倒れているところを別の出入りの業者によって発見された。その後病院へ搬送されるも、急性硬膜下血腫により死亡した。	40301	1	1～9
2020	2	8 ～ 10	被災者は、資材置き場において他の作業員と2名でつり上げ荷重2.63トンの車両積載型トラッククレーンを操作して、木の枝の束（重量：約250～350kg）を荷下ろししていたところ、吊り荷が強風にあおられ（平均風速は調査中。）、トラッククレーンが転倒し車体と地面の間にはさまれ、外傷性窒息により死亡したものの。	30309	7	30～ 49
2020	2	10 ～ 12	掘削用の防護壁の支柱として使用していたH型鋼（長さ：766cm、幅：30cm、重さ：約660kg）を移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルで吊り上げ、旋回していたところ、玉掛け用の吊りクランプから当該H型鋼が脱落し、付近で交通誘導をしていた被災者の背後に向かって倒れ、そのまま同者に激突したものの。	170201	6	1～9

2020	3	12 ～ 14	民間住宅新築工事現場において、車両積載形トラッククレーンを用いて型枠資材撤去作業中に、当該トラッククレーンの荷台でリモコン操作をしていた被災者が荷台から墜落したものの。	30201	1	10～ 29
2020	4	10 ～ 12	法面工事現場において、被災者がチェーンソーを使用し、トラック（最大積載量3.5t）の荷台上で処分する杉の伐倒木の玉切り作業を行うため、移動式クレーン（クレーン仕様のドラグ・ショベル、定格荷重2.9t）によりつり上げた伐倒木を当該荷台上に移動させたところ荷振れが生じ、被災者がそれを抑えようと伐倒木を抱え込んだ際にバランスを崩し、伐倒木とともに地面に墜落して下敷きとなった。	30108	1	10～ 29
2020	7	22 ～ 24	定格荷重2.9トンのクローラクレーンで、土砂を集積したフレコンバックを吊り上げようとしたところ、フレコンバックを置いていた単管の囲いにフレコンバックが引っかかったため、クレーンを運転していた被災者が前方を確認するため頭部を出した際、身体が旋回レバーに接触し、左旋回したことから近接した場所に設けていた昇降足場の建地とクレーンのキャビンの間に頸部が挟まれ被災したものの。	30103	7	10～ 29
2020	8	10 ～ 12	被災者の当日の作業内容は出張先の車両系建設機械のフロントガラスの交換作業である。被災者は出張先の敷地内にて作業を行っていたが、同敷地内では同社労働者が移動式クレーンを用いたダンプからの荷卸し作業が行われていた。午前頃、被災者は当該移動式クレーンの上部旋回体と停車中の車両積載型トラッククレーンとの間に腹部を挟まれた。	11702	7	50～ 99
2020	9	10 ～ 12	被災者が搭乗する移動式クレーンが、作業構台から7メートル下に墜落したものの。被災者は70トンクローラクレーンを使って、作業構台から、7メートル下の地下部分に、鉄筋等を下ろしていた。休憩中に当該クレーンがゆっくりと構台端部に動き出し、手すりをなぎ倒した後、そのまま被災者ごと墜落した。その後、搬送先の病院にて3日後に死亡した。	30201	1	10～ 29

2020	9	10 ～ 12	つり上げ荷重2.33tの積載型トラッククレーンを操作し、荷台に積んだヒューム管(約600kg、60cm(外径)、長さ2.5m)の積み下ろしをしていたところ、移動式クレーンが倒れ、運転席ドア部と地面に挟まれた。	30209	6	1～9
2020	9	14 ～ 16	被災者が橋の上に設置したつり上げ荷重2.93t移動式クレーンを操作し、橋の川下側高水敷にあるドラグ・ショベルを吊り上げようとしたところ、当該移動式クレーンが転倒して被災者に激突し、負傷した。救急搬送された医療機関で死亡が確認された。	30106	7	10～ 29
2020	10	8 ～ 10	ホイールクレーン(吊り上げ荷重25t)の補助フックが作業開始前に、動かなかつたため、補修のためジブを下げている途中、補助フックを支えていたワイヤーが切れ、補助フック(約70キロ)が落下し、被災者の頭部に当たったもの。	11501	4	1～9
2020	11	8 ～ 10	工事現場において、被災者が移動式クレーンを用いてユニック車を吊り上げて旋回したところ、移動式クレーンが傾き、転倒した。移動式クレーンは擁壁にもたれかかる形となったため、運転席は移動式クレーンの車体と擁壁に挟まれて押し潰され、運転席にいた被災者は死亡したもの。なお、アウトリガー脚部の接地箇所1か所が沈下しており、当該沈下により車体のバランスが崩れたものである。	30199	2	10～ 29
2020	11	10 ～ 12	被災者は、造成工事現場にコンクリート製間知石を積載形トラッククレーンで運搬し、工事現場に近接した道路に駐車した。工事現場の重機で荷卸しする前に、邪魔となる自車ジブを車体右側の操作レバーで前部へ旋回中、傾斜8度の坂道であったため無人の車体が後進し、車体と背後の擁壁の間にはさまれたもの。	10901	17	10～ 29
2019	2	10 ～ 12	被災者は、工事現場内に設置された外部足場13層目作業床で、足場から躯体側に身を乗り出して外壁にトタンを貼る作業を同僚2名と行っていた。一方、別業者の作業員が移動式クレーンにより床材8枚の躯体内への搬入作業を行っていた。その際、吊り荷である床材の1番上の1枚(鋼製、長さ約2m、幅約30cm、重さ約25kg)が	30201	4	30～ 49

			被災者らの作業していた足場と躯体の間に落下し、作業中の被災者の顔に当たり死亡した。			
2019	2	8 ～ 10	被災者は朝から一人で被災現場で産業廃棄物を入れたコンテナ（総重量2.3t）を回収するため、車両積載型トラッククレーンで積み込み作業を行っていた。荷を吊り上げ、ジブを旋回させた際、機体がバランスを崩し、操作していた被災者の方へ横転し下敷きになったもの。	150102	6	50～ 99
2019	2	10 ～ 12	被災者は砂防工事現場において車両積載型クレーンを使用し、工事用道路で使用した敷鉄板の搬出作業に従事。トラック荷台上約40cmの位置から鉄板を荷台へ降ろそうとしたところ、ジブ根本部分にある巻上用ドラムの位置がずれ、ドラムの歯車がピニオンから外れたためドラムが回転し、巻上用ワイヤーロープが滑り出て荷が落下。落下した鉄板が荷台上にいた被災者に接触し、その反動で1.15m下の地面に墜落した。	30108	6	10～ 29
2019	3	12 ～ 14	電波塔を建設する工事において、塔の基礎となる立坑（深さ約6.3メートル、直径1.43メートル）を掘削中、内部の掘削した土砂を容器に入れて搬出するために移動式クレーン（つり上げ荷重2.37トン、カニクレーン）を用いて吊り上げていたところ、巻上用ワイヤーロープが切断したため吊り荷とフックが落下して立坑の底部で作業をしていた被災者を直撃した。	30209	4	1～9
2019	3	12 ～ 14	被災者は、携帯電話基地局に使用されていた電柱（長さ15m、重量約2.2トン）を車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重：2.93トン）に積み込む作業中、荷台前方の鳥居部の助手席側に電柱の先端を一旦載せ、鳥居部の運転席側に電柱先端部をずらそうと荷台上でリモコンを操作し、ジブを伸ばして荷台後方に電柱を引いたところ、鳥居部から電柱の先端が落ち、過荷重でジブが折れ、電柱が落下して被災者に当たった。	40301	4	10～ 29
			高さ約24mの作業構台上で、作業員2名が仮溶接した搬出入用架台のクランプ止めした単管に安全帯のフックをかけ、玉掛用のシャック			



2019	4	8 ～ 10	ルを外す作業を行っていたところ、突然、移動式クレーンの補ジブが跳ね上がり、同架台も仮溶接部分が外れて跳ね上がった。被災者2名も、安全帯のフックがかかっていたため同架台とともに跳ね上がり、移動式クレーンの主ジブに激突した。その衝撃で単管が外れ、2名は地上に墜落し、死亡した。	30302	1	10～ 29
2019	4	8 ～ 10	高さ約24mの作業構台上で、作業員2名が仮溶接した搬出入用架台のクランプ止めした単管に安全帯のフックをかけ、玉掛用のシャックルを外す作業を行っていたところ、突然、移動式クレーンの補ジブが跳ね上がり、同架台も仮溶接部分が外れて跳ね上がった。被災者2名も、安全帯のフックがかかっていたため同架台とともに跳ね上がり、移動式クレーンの主ジブに激突した。その衝撃で単管が外れ、2名は地上に墜落し、死亡した。	30302	1	10～ 29
2019	4	8 ～ 10	資材置き場において、杉の木を伐採する前処理として枝の剪定を、専用の搭乗設備を装着した移動式クレーン（定格荷重2.9トン）を使って行っていた。作業がひと段落し、地上に降りるため、被災者がリモコンを操作し下降していたときに、枝が被災者にあたり、被災者が搭乗設備から約10メートル下に墜落したものの。	30199	1	10～ 29
2019	5	8 ～ 10	倉庫解体工事現場において、被災者一人で歩道の敷鉄板を積載型小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.93t）を用いて当該クレーンの荷台に積み込み作業を行っていた。敷鉄板積み込み作業場所から「ドン」と音がしたので、廃材の仕分け作業を行っていた別の作業員が音のした方を振り向いたところ、被災者が敷鉄板1枚（縦1.53m、横3.05m、重量約800kg）の下敷きになっていたものである。	30209	4	10～ 29
2019	6	6 ～	工場内の原料受入れ棧橋において、クローラクレーン（バケット付き）を使用し、船から原料である石油コークスをホッパーに投入する作業をしていた。工場側から設備の点検をしながらホッパーのところまで来た別会社の労働者が作業中のクローラクレーンの下に倒れてい	50202	7	30～ 49

		8	る被災者を発見した。発見後、病院へ搬送されたが死亡が確認された。			
2019	7	10 ～ 12	工場内において、オペレーターが、移動式クレーン（リフティングマグネット装着）を運転して、被災者の乗っていたトレーラーの荷台のスクラップを持ち上げた。被災者が持っていた竹ぼうきも吸い付いてきたため、ドラグショベルを降り、トレーラー荷台を見に行ったところ、被災者が倒れていた。	40301	6	10～ 29
2019	7	10 ～ 12	工場において、トラック荷台に積まれた鉄材のスクラップをマグネットのアタッチメントを取り付けたドラグ・ショベルで荷降ろしする作業を行っていた。トラック荷台の床面付近をドラグ・ショベル先端のマグネットで複数回往復させたところで同僚がトラック内に被災者が倒れていることを発見した。マグネットがトラック荷台にいた被災者の頭部に激突したものと推定される。	40301	6	1～9
2019	8	8 ～ 10	被災者は建設工事現場前の道路上で当該工事に係る交通誘導警備員として被災事業場の労働者Aと2名体制で交通誘導の業務に従事していた。被災当日、当該工事に係る荷の搬入のため、車両積載型トラッククレーン（最大積載荷重2トン）の誘導を当該車両の後方から行っていたところ、後退してくる当該車両の後輪に被災者が轢かれたもの。	170201	17	100 ～ 299
2019	10	8 ～ 10	被災者は、積載型トラッククレーン（2.9t）のジブ先端に取り付けられた搭乗設備上で伐採された木の回収作業を行っていた。自らクレーンをリモコンで操作し、立木に挟まった木にベルトスリングを取り付けて当該クレーンのフックにかけて引っ張っていたところ、挟まった木が取れたことで張力が抜け、その反動で、墜落制止器具を着用していなかった被災者が搭乗設備から投げ出され、高さ約8.8m下に墜落した。	30309	1	100 ～ 299
		10	ユニック車の車載の移動式クレーンを用いてグランドアンカー（橋の補強に使う鉄骨）を吊り上げ、移動させようとした際に、車体が傾			

2019	11	～	き、荷台に積んでいた別のグラウンドアンカーが滑り落ち、被災者の	11209	4	1～9
	12		背中に滑り落ちたグラウンドアンカーが激突し、事前の作業で置かれていたグラウンドアンカーとの間に挟まれた。			
2019	12	～	会社の資材置場の敷地において、作業員（移動式クレーン運転士）が			
	12	～	ホイールクレーン（つり上げ荷重25t）を使用し、クレーン前方向	30199	6	10～
	12		右側にあった鉄製バケット（約100kg）をトラックに積み込むため当該バケットの位置までブームを伸ばした際、クレーン前方向右側に転倒し、ブーム先が当該バケット付近にいた被災者（玉掛者）に激突したものの。転倒時のブーム長さ約16.5m、傾斜角約27度、作業半径約13mであった。			29
2019	12	～	二本のH鋼（3.6mと5.4m）をクレーンで連結させる作業を行っていた。H鋼は並列に二本置かれている状態で、その並列で置かれているH鋼の間で連結させた部分のボルトを締める作業を被災者と	30209	6	1～9
	12	～	同作業者の二名で行っていた。連結作業終了後、チェーンブロックを巻き上げた際にフックがH鋼に当たり、H鋼が被災者側に倒れ、下敷きになり、死亡した。			
2019	12	～	つり上げ荷重80tの移動式クレーン（ラフテレーンクレーン）で、			
	12	～	成型機（10.5t）を構台から吊り上げ、トラック荷台に乗せるために旋回したところ、移動式クレーンが横転した。横転した移動式ク	30201	5	10～
	12	～	レーンのブームは、現場敷地内に駐車していた車両数台に直撃し、車内で待機していた被災者が死亡したほか、5名が負傷した。			29
2018	1	～	クレーン機能付きドラグ・ショベルを別の現場に移動するために、取	30309	1	10～
	1	～	替用バケットを吊りながら、所定の場所まで敷鉄板で養生された農道（傾斜8度の下り坂）を走行中、当該ドラグ・ショベルがスリップして逸走し、田んぼに転落しかけたため、運転席から飛び降りたところに、当該ドラグ・ショベルが転落し、下敷きとなった。			29
			RC造新築工事において、構台上の移動式クレーンにより、構台上の			
			ヤードから地下階へ仮設資材の荷下ろし作業中、構台端部から地下階			

2018	1	～	13	の状況を確認していた玉掛者兼合図者である被災者が、同じく構台上で作業をしていた別の移動式クレーンが旋回した際に、当該移動式クレーンの上部旋回体と付近の構台手すりとの間にはさまれたもの。	30201	7	50～ 99
2018	1	～	15	利用者宅へ向かう途中、被災者が運転する二輪車が道路左側を走行中、後方から走行してきた大型車（移動式クレーン）と何らかの原因で接触、転倒し轢過されたもの。	130201	17	30～ 49
2018	2	～	9	被災者は移動式クレーン（12t）を運転して市内の現場に向かう途中、林道脇に約5m滑落し、外傷性圧迫死により死亡したもの。	30301	17	1～9
2018	2	～	11	クレーン機能付きドラグショベル（以下重機と呼ぶ）を使用して、トラックの荷台に積まれたH鋼（長さ350センチメートル、重さ2800キログラム）を資材置場に卸す作業中、H鋼を保持していた玉掛け作業員である被災者が、H鋼が傾いたため、あわててH鋼に駆け寄り、転倒して重機前方にうつぶせになった直後、つり荷がクランプから外れ、重機の運転席に落下して操作レバーを動かし、重機が前進し被災者をひいたもの。	30110	7	1～9
2018	2	～	9	休耕している水田内に工事用仮設作業道として設置していた敷鉄板の搬出作業中、クレーン機能付きドラグショベルで吊った敷鉄板がダンプの荷台上で引っかかり動かない状態となった。クレーン機能付きドラグショベルを運転していた被災者が運転席から降り、自らダンプの後アオリを下したところ、敷鉄板が振り子状に動き被災者の胸に激突し、続けて被災者後方の重機に背中から激突したものである。	30199	6	1～9
2018	3	～	9	一般国道道路改良工事において、重さ1.8トンのL字型擁壁を現場から搬出するため、現場代理人である被災者がつり上げ荷重2.93トンの車両積載形トラッククレーンを操作し同擁壁をつり上げトラックの荷台側へ旋回したところ、当該クレーンが転倒し、当該クレーンとトラックの間に被災者が挟まれ死亡したもの。	30106	7	1～9

2018	3	14 ～ 15	トラックの荷の積み込み作業を終えて運転席に戻ろうとしたときに、別会社の労働者が運転するトラッククレーンにはねられて死亡したものである。	40301	6	10～ 29
2018	4	10 ～ 11	移動式クレーンの整備で、ブーム上のグリス穴にグリスを指すために、車体に設けられた地上から高さ2.7mの位置にあるステップを登っていたところ、足を滑らせ、墜落し、頭部を負傷した。救急搬送され、治療を受けたが、死亡した。	30309	1	10～ 29
2018	4	8 ～ 9	被災者が一人で坂になっている道路に停めていたユニック車のクレーンのブームを伸ばしていたところエンストしたため、エンジンをかけた。その後しばらく経っても被災者の姿が見えなかったため、他の労働者が土手の下を見たところ、約10メートル下で俯せで倒れていた。道路から土手へ転落し、頭部等を強打したと思われる、救急車を呼び病院に搬送後、死亡した。	80209	1	10～ 29
2018	5	10 ～ 11	ユニック（移動式クレーン）で現場に資材を搬入してきた被災者が資材（約1.4トン）をユニックのクレーンで吊っていたところ、ユニックが傾き、その車体と現場の仮囲いのポールとの間にはさまれたもの。	40301	6	50～ 99
2018	6	2 ～ 3	現場での作業を終了し会社に戻るため、積載型トラッククレーンに2名で乗車して国道を走行中、緩い右カーブの箇所直進したことから、歩道の端に設置していたガードフェンスに衝突、助手席の労働者が搬送先の病院で死亡し、運転していた労働者が負傷した。	30301	17	10～ 29
2018	6	10 ～ 11	クレーン機能付ドラグ・ショベル（定格荷重2.9t、クレーンモードで使用）で、ロードマット（格子状の金属製敷板：重量約600kg）を吊った状態で車両通行路（上り勾配：約20度）を走行していたところ、履帯（クローラ）が滑ったため、運転手は吊荷を下し、バケットを地面に着いて滑りを止めようとしたが止められず、法面にいた被災者を巻き込み、路肩から約17m下に転落した。	30199	6	10～ 29
		12				

2018	7	13	被災者が、クレーン機能付きドラグ・ショベルを運転していた際、当該ドラグ・ショベルが転落した。	30106	1	30～ 49
2018	7	16 ～ 17	被災者が、親事業場が移動式クレーンの試運転を行っている箇所に隣接する場所で屋外通路をペンキで塗り分ける作業に従事していたところ、荷重試験を行っていた移動式クレーンのジブが旋回中に折損して倒れ、被災者と下請け事業場の事業主が倒れてきたジブの下敷きになる等して死亡した。また、周辺で作業をしていた作業員が飛来してきた部品に当たる等して負傷した。	11301	5	10～ 29
2018	8	10 ～ 11	被災者は、配送作業員として所属事業場所有のリース機械である高所作業車をつり上げ荷重2.6tの小型移動式クレーンの荷台に載せて、災害発生場所の建設現場に運搬した後、当該現場横の駐車場において、小型移動式クレーンを用いて荷台に載せた高所作業車をつり上げ地上に下ろそうとしたところ、当該小型移動式クレーンが横転し、つり上げていた高所作業車の下敷きとなったものである。	80409	6	1～9
2018	9	16 ～ 17	岸壁のゴム製緩衝材の補修工事において、移動式クレーン機能付きドラグショベル（吊り上げ荷重0.9t。バケットは外している。）のフックに搭乗設備を吊り、被災者がその上に乗って海面から2m程の箇所で作業を行っていたところ、フックから搭乗設備の吊環が外れ、被災者は搭乗設備ごと海に落下した。被災者は吊環に安全帯を掛けていたため、水中に引き込まれて死亡した。なお、移動式クレーンモードへの切替えなし。	30309	10	1～9
2018	10	14 ～ 15	被災者は、車両積載型クレーン（つり上げ荷重2.93t）を運転して、同クレーンの荷台に積んだポプラの玉切り木（重量2.44t、長さ350cm、直径は最も太い箇所101cm）をつり上げ、続いて地面に下ろそうとしたところ、同クレーンが転倒して斜面から転落した。被災者は別の労働者によって斜面の下で同クレーンの横に倒れているのを発見され病院に搬送されたが、胸部外傷等により死亡が確認された。	30107	1	10～ 29

2018	10	18 ～ 19	鉄・非鉄スクラップ加工処理場において、トラックの荷台上のスクラップを重機に取り付けたリフティングマグネットを使ってつり上げ作業をしていたところ、荷台内にいた合図者兼トラック運転者である被災者に、リフティングマグネットが激突したもの。	11709	6	1～9
2018	10	8 ～ 9	汚染土壌の搬出作業において、4トントラックの荷台の横にいたトラック運転手が、旋回してきたクレーン機能付きドラグ・ショベルのカウンターウエイトと同トラックの荷台の間に胸部を挟まれ、死亡したものの。	30309	7	10～ 29
2018	11	8 ～ 9	個人宅において植木の移植作業中、槇の木を移動式クレーン（2.9 t）で吊り上げたところ、枝等がジブに接触し持ち上げることができなくなったため、吊っていた木を一旦掘った穴（吊り上げた木の根を掘った穴）に戻したところ、被災者が穴に落ちていることに気づかず、胸を圧迫され死亡したものの。	30199	7	1～9
2018	11	16 ～ 17	工場内施設協力会駐車場において、駐車場に並列して駐車してあった高所作業車の助手席側前方アウトリガー付近とトラッククレーンの運転席側の側面との間に被災者が胸部を挟まれ意識を失っているところを仕事が終わる駐車場に立ち寄った作業員が発見した。	30302	7	30～ 49
2018	11	14 ～ 15	クローラクレーン（つり上げ荷重120トン、トラスジブ2段）のジブ解体作業にて、2段目のジブを1段目ジブ下部に格納、固定し、下向きになったジブ固定用ワイヤーロープのストラットを敷鉄板の上に置き、ジブ下部にてジブ先端に取り付けたカメラの配線、その他のケーブルの取り外し作業を行っていたところ、敷鉄板上ストラットが前方に滑り、そのはずみでジブがコンクリート床に落下しジブ下部で作業していた4名が被災した。	30201	4	10～ 29
2018	11	8 ～	被災者は、移動式クレーンのジブの先に取り付けられたカゴと呼ばれるアルミ製の搭乗設備に乗り、リモコンで操作しながら、高さ約7 m、胸高直径40 cmのケヤキの木の剪定作業を行っていたが、何らかの理由でカゴから地上に墜落したものの。災害発生時、地上からカゴ	60101	1	1～9

		9	の作業床までの高さは6.4mで、被災者は安全帯、ヘルメットを着用していなかった。			
2018	11	8 ~ 9	被災者は積載型トラッククレーン（ユニック車）を運転して法面養生用の鉄板を現場に搬入する業務に従事していたが、現場に同車両を駐車した際に、同車両が後方へ逸走し始めたため、これを被災者が止めようと車両の助手席ドア部分を押さえていたところ、押さえきれずに車両と共に車両停車位置の側方の路肩下部へ転倒・転落し、車両の下敷きとなったもの。	30209	7	10~ 29
2017	1	8 ~ 9	杉の伐採、搬出現場において、造材が終了した丸太を搬出するため、トラックの運転手が最大積載量7.2tのトラックを運転し、現場内の回転場で方向転換を行った後、後進で丸太の積み込み箇所まで約50m移動させ停車したところ、トラックの車体の下に倒れている被災者を発見した。被災者は、集材土場において、先山から機械集材装置で降ろした材の荷外し作業を担当していた。	60201	7	10~ 29
2017	1	8 ~ 9	クローラクレーン（吊り上げ荷重200t）の起伏ドラム（ダブル）に巻かれているワイヤーロープ（φ22mm）が乱巻きとなり、一方のワイヤーロープは巻き取られずにカウンターウエイトまではみ出していたことから、被災者と同僚作業員が乱巻き等を直していたところ、突然ジブが降下し、撓んでいたワイヤーロープが瞬時に張ったため、起伏ドラム方向にワイヤーロープが弾け、同僚作業員の顔面をかすめ、被災者の頭部を直撃した。	30111	6	30~ 49
2017	2	6 ~ 7	被災者は鉄屑をトラックで工場内の鉄屑下ろし場に搬入した。作業員が、ドラグショベルにリフティングマグネットを装着した移動式クレーンを使用してトラックの荷台から鉄屑を下ろす作業を行っていたが、近くで見ていたはずの被災者の姿が見えなくなったため、荷台の中を確認したところ、荷台の後方で倒れている被災者を発見した。なお荷台の中には竹ぼうきが落ちていた。	150102	6	10~ 29



2017	2	14 ～ 15	被災者と事業主の2名が私有地の山林でつり上げ荷重2.93トンの移動式クレーンを用いて、丸太をかにはさみ状の玉掛け用具を用いて一点吊りにし仮置き場に移動させる際、荷が片側に傾いていたため、仮置きしていた丸太に荷の先端があたり、反動で吊り具のはさみの一方がはずれ、荷が先端を軸として回転し、荷の近くにいた被災者の背中に激突したあと、頭部にも当たり翌日脳挫傷により死亡した。	10401	6	1～9
2017	4	8 ～ 9	被災者は工場内岸壁付近で移動式クレーン（60t）を後退させたところ、左後輪が岸壁外側へ脱輪し、被災者が乗車した状態で下方の海に転落した。被災者は病院に搬送され、死亡が確認された。岸壁部分はコンクリート構造の段差があり、被災者が脱輪時に付近の作業者に「コンクリートを見間違えた」と申し立てていることから、上段と下段のコンクリート面を同じ平面と勘違いし脱輪したものと推測される。	30302	1	30～ 49
2017	4	14 ～ 15	道路を走行中の廃油運搬車が一般車両を回避するため減速した際、廃油運搬車の後方を走行していた積載形トラッククレーンが当該廃油運搬車に追突。トラッククレーンを運転していた被災者が死亡した。	80409	17	1～9
2017	4	8 ～ 9	被災者は、最大積載量10トンの車両積載形トラッククレーンに住宅用資材を積載し、新築住宅工事現場に向かったが、現場の作業場所が狭隘であったため、近くにある駐車場において、同僚1名と最大積載量3.75トンの車両積載形トラッククレーンに当該資材を積み替える作業を行っていた。作業を開始してまもなく、近くを通った女性がうつ伏せで倒れていた被災者を発見し、救急搬送されたが、翌日死亡した。	40301	1	10～ 29
2017	5	16 ～ 17	足場仮設材の引取りに、移動式クレーン（トラッククレーン）で現場に入場した被災者が、トラッククレーンに荷の積み込みを終えたあと、積み込まれた荷の上（地上より高さ2m65cm）で作業を行っていたところ、荷の上から地上面へ墜落した。	40302	1	10～ 29
			現場周辺の木を伐採するため、チェーンソーを持った被災者らを搬器			

2017	5	16 ～ 17	に載せクレーンで吊り上げた後、クレーンから遠方に到達させるために徐々にジブを倒していったところ、作業半径が約28メートルに差し掛かった時点で突然ジブが縮み、そのため搬器が落下した。	30309	1	1～9
2017	5	16 ～ 17	現場周辺の木を伐採するため、チェーンソーを持った被災者らを搬器に載せクレーンで吊り上げた後、クレーンから遠方に到達させるために徐々にジブを倒していったところ、作業半径が約28メートルに差し掛かった時点で突然ジブが縮み、そのため搬器が落下した。	30309	1	1～9
2017	5	8 ～ 9	被災者が、建設現場に仮設足場材の納品に赴き、移動式クレーンの荷台上で、移動式クレーンの操作を行いながら、荷下ろし作業を行っていた。移動式クレーン操作中に、吊り荷に背を向ける形で現場労働者と話しをしていたところ、荷振れを起こした吊り荷が被災者の背中に当たり、被災者が地面に墜落した。被災者はその後、入院中に病院で容態が急変し2ヶ月後に死亡した。	40301	1	10～ 29
2017	5	8 ～ 9	鉄骨造建物の新築工事現場で行っていた鉄骨建方作業において、高さ9.4メートルの鉄骨上で、相番者1名と鉄骨梁の取付作業をしていた被災者に、移動式クレーンで吊られた状態の鉄骨梁（重量4.2トン）が激突し、被災者が頸髄損傷で死亡した。	30209	6	1～9
2017	5	10 ～ 11	下水道新設工事において、クレーン機能を備えたドラグショベルを用いてクレーン作業で下水管（HPφ800 重さ約1.2t）をつり上げて、事前に掘削した底面（深さ約1.9m）に設置する作業中、つり上げた下水管の一端が掘削側面に接触し動かなくなったため、被災者が掘削底面に下り、下水管に近づき素手で接触部分を外したところ、つり上げられていた下水管が振れ被災者の胸部に激突した。	30110	6	10～ 29
2017	5	16 ～ 17	積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93トン）で木材が入ったコンテナ（重量2.2トン）をつり上げ、移動させていたところ、当該クレーンが倒れ、操作していた被災者が下敷きになり、死亡した。	150102	5	1～9

2017	7	12 ～ 13	側溝排水管敷設工事現場において、U字型側溝を運搬するため、積載形トラッククレーンを使用して当該側溝（長さ約2m、重さ約350キログラム）を2個、玉掛けしジブを起こしたところ、トラックがバランスを崩して転倒し、左側のアウトリガーと荷台の間にはさまれた。	30199	7	1～9
2017	7	16 ～ 17	足場の材料を積載型トラッククレーンの荷台に当該クレーン（つり上げ能力3t未満）を用いて積む作業において、玉掛け者（被災者と別人）が単管パイプ（長さ1m）約50本を番線で結束したもの2束をスリング2本で玉掛けし、被災者がリモコン操作で吊り上げて旋回させながら荷台の方向へ歩行していたところ、吊荷の単管パイプが高さ約3mの位置から落下して被災者に当たった。	30201	4	1～9
2017	7	8 ～ 9	出張先の霊園において、車載型トラッククレーンで小型クローラークレーンをつり上げてトラックの荷台へ積み込んでいた際に、トラックの車体とクレーンとの接合部分が損傷し、ブームが倒れ、監視業務を行っていた被災者の頭部にブームが激突した。	10909	6	10～ 29
2017	9	14 ～ 15	長さ17メートル、奥行き1.4メートル、高さ1メートル程度の鉄製配管（重量6.7トン）を、クレーンによる移動作業中、当該配管を高さ80センチメートルにある木製の台座に下ろすために台座の上方20センチメートルまで下ろしたところ、クレーンにより吊っていた場所を中心として配管が垂直方向に回転したため、回転する配管の突出部分に労働者1名が巻き込まれ、配管と地面に当該労働者がはさまり、死亡した。	30309	6	1～9
2017	9	8 ～ 9	2.9トン小型移動式クレーンを使用し、翌日以降に使用する資材（鉄筋）を降ろす際の災害。被災者は、左側アウトリガーを張り出して下降接地させたところ、前方に約8度下降傾斜する地形であったため車両が流れ出し、アウトリガーボックス前方に位置していた被災者がなぎ倒され、左後輪に轢かれた（単独作業のため目撃者なし）。	30201	7	1～9
			移動式クレーン（つり上げ荷重25t）を用いて、鉄骨柱材（約2.			

2017	11	8 ～ 9	5 t) を吊り上げる作業を行っていた際に発生した災害。吊り上げた鉄骨柱材が別の鉄骨柱材 (以下「当該柱」という。) の下に敷いていたH型鋼と接触していたため、H型鋼がバランスを崩して倒れた。これにより、当該柱がスライドし、付近で作業していた被災者が当該柱と横に置かれていた鉄骨柱材の間に挟まれた。	30201	5	10～ 29
2017	12	4 ～ 5	大型トラックを運転し、片側一車線の国道を走行していた被災者に、ブームを固定しないまま対向車線を走行してきた積載型トラッククレーンのブームが激突した。	40301	17	30～ 49
2017	12	8 ～ 9	被災者が、最大つり上げ荷重2.33tの車両積載形トラッククレーンを操作し、別の2tトラックの荷台から重さ約0.9tのフレコンバックをつり上げ、地面へ降ろしていたところ、当該クレーンが2tトラック側へ転倒した。被災者は、当該クレーンの車体 (運転席) と2tトラック荷台のあいだの間に胸部をはさまれた。	30199	7	1～9
2016	4	8 ～ 9	傾斜している工事用道路 (上り坂) において、クレーン仕様のドラグ・ショベルで吊っていたセメント袋を、目的地に下ろすため右旋回したところ、後方に転倒し、吊り荷が被災者に激突した。	30108	6	30～ 49
2016	5	14 ～ 15	水門の耐震補強工事において、水門側部の戸当りの撤去作業中、切断した戸当りの一部 (約1.7tのコンクリート塊) にアンカーボルトを打ち込み、クレーンを用いて吊り上げ、旋回しようとした際に、アンカーボルトが抜け、コンクリート塊が足場を直撃し、足場頂部から約16m下に落下、落下したコンクリート塊により、足場作業床が外れ開口部となった箇所から被災者1名が約12m下に墜落し死亡、他1名が足を打撲した。	30107	1	10～ 29
2016	5	16 ～ 17	当該事業場工場内に停車している最大積載量3,000kgのトラッククレーンの側に仰向けで倒れていた被災者を工場内にいた同僚が発見した。	150102	1	10～ 29
			林道上で生コン車からコンクリートバケット内に生コンを受け入れた後、クレーン仕様のドラグ・ショベル (つり上げ荷重0.9t) の			

2016	8	8 ～ 9	フック部分に玉掛ワイヤーロープを掛けた状態でコンクリートバケツト（総重量0.49～0.51トン）をつり上げ、林道谷側に向けて旋回を行ったところドラグ・ショベルが谷側に傾き、林道上から4.5m下の床堀面にドラグ・ショベルが転落し、運転手（被災者）が投げ出されて死亡した。	30106	1	1～9
2016	9	16 ～ 17	災害復旧工事の現場において敷鉄板の搬出作業中、ドラグショベルで吊り上げた敷鉄板をダンプ荷台上で荷受けしていた被災者が、敷鉄板とダンプのあおりに挟まれ被災した。災害発生後手術を行い、一命を取り留め容体は安定していたが、発生から41日後に死亡した。	30107	6	30～ 49
2016	9	15 ～ 16	港内にて、長さ8.5メートル幅43センチメートルの鋼製矢板を18枚束ねた荷（約9トン）をクローラークレーンで吊り上げ、クレーンの前方左方向に約45度旋回させて防波堤脇の荷置場へ仮置きしていたところ、荷の受け取りを行っていた労働者のうち1名の胸部が吊り荷とコンクリート防波堤との間に挟まれ、心破裂し、死亡した。	30111	6	30～ 49
2016	9	13 ～ 14	被災者は、浮きクレーンのブームを定位置に置くため、同僚と船上でフックを横置きする作業を行っていた。当日使用していない補巻ワイヤー（補巻フック用ワイヤー）は、ブームに沿ってクレーン上部旋回体下部の取付金具に掛けて格納していたが、浮きクレーンのブームを下げた際、補巻ワイヤーが緊張し、取付金具が破断。外れた補巻ワイヤーが約30メートル先のフック付近にいた被災者に激突した。	30111	6	10～ 29
2016	11	11 ～ 12	急斜面の維持管理工事において、作業員が斜面上で伐木した樹木を移動式クレーン（つり上げ荷重35t）の補巻きワイヤーロープのフックに玉掛けして地上に降ろす作業に当たって、同クレーンの運転手に合図を送るため主巻きワイヤーロープのフックに玉掛けした搬器に搭乗していた被災者が高さ約13mから搬器と共に落下して死亡した。	30201	1	30～ 49
2016	11	9 ～	移動式クレーンで鉄骨をつり上げたところ、つり上げた鉄骨が積み重ねていた隣の鉄骨に接触し、積み重ねられていた鉄骨の上には被災者ととともに落下した。被災者は鉄骨と鉄骨との間にはさまれ、死亡し	11209	1	1～9

		10	た。			
2016	11	8 ～ 9	車両積載型トラッククレーン（ジブが伸縮する型式）の荷台から、建設機械を当該クレーンを用いて荷台の側方に降ろしている際に転倒し、クレーンの運転者が下敷きになった。	30199	6	1～9
2016	12	8 ～ 9	きび輸送用移動式クレーン（つり上げ荷重3 t未満、積載重量8.2 t）を、死亡労働者が運転中（県道を走行）、県道下約8メートルに転落した。	40301	17	1～9
2015	11	12 ～ 13	被災者は、木造2階建住宅新築工事のため、車両積載形トラッククレーンを使用し、結束した木製土台41本（約700kg）を2本のスリングロープで玉掛けし吊り上げブームを旋回中、クレーンが転倒し、クレーンのそばで操作していた被災者がクレーンと地面に積まれた足場材にはさまれた。ブーム角度50度、作業半径6m、アウトリガーは最小張り出しで使用していた。（調査確認中）	30202	2	10～ 29
2015	7	13 ～ 14	工場敷地内において、被災者は、車両積載形トラッククレーンの修理作業のため、助手席側前輪付近の車体底部に潜り込み、取付けられたエンジンスターターの不具合を確認していた際に、同僚にエンジンキーを回すよう指示したところ、トラックが後進し、トラックの前輪に轢かれたもの。	11701	7	1～9
2015	8	10 ～ 11	バイパス上において、道路照明ポール（長さ9.5m、重さ170kg）を撤去するため、トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）で吊り、端部（アンカー部）を地上に着地させた後、先端部を下ろそうとした際に、ポール向きを調整しようとしたところ、当該ポールが被災者側に動き、ポールとトラッククレーン荷台のあおりの間に胸部を挟まれたもの。心肺停止状態で病院に搬送されたが病院で死亡（12：26）が確認された。	30301	6	1～9
		11	金属リサイクル業者の敷地内において、金属買取り業者の被災労働者がトラック納品のため入場、Y社の労働者2名が2機の重機を使用し			

2015	6	～ 12	荷降ろしを開始、作業を終了しようとしたところ、トラックの荷台の上に被災労働者が倒れているのが発見されたもの。当該作業の際、被災労働者が荷台に立ち入るのを現認したものはいない。なお被災労働者の労働者性については現在調査中である。	80109	6	10～ 29
2015	5	10 ～ 11	前日に引き抜かれ、公道の脇に横置きされたコンクリート製電柱（長さ14m、外径30cm、重量約1t）を指定された場所へ運搬するため、労働者2人で、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）の荷台へ積込む作業を行っていたところ、使用していた玉掛用ワイヤーロープが当該クレーンのフックから外れて落下し、直下にいた被災者が下敷きとなった。同僚は、当該クレーンを運転していたが、負傷はなかった。	40301	4	30～ 49
2015	1	23 ～ 24	作業終了後、海底ブロック据付工事のため着岸させていた台船内に設けた寄宿舍から、船長と被災者の2名で19時頃に一時下船し、飲酒を伴う夕食を摂った後、23時頃再度上船し寄宿舍へ戻ったが、被災者が翌朝6時を過ぎても姿を見せず行方不明となっていることが判明した。翌月20日、約18km離れた海岸で遺体が発見された。台船付近の海上に被災者のサンダルが浮いていたこと等から海中へ転落したものと推定される。	30111	10	10～ 29
2015	9	14 ～ 15	ドラグショベルを移動式クレーンモード（つり上げ荷重2.9トン）で使用し、排水路上から排水路内へ鉄板（6m×1.5m、厚み2.2cm、1.6トン）を下ろす作業において、排水路の法肩（法面の角度約20度）上に設置した移動式クレーンで鉄板をつり上げて左に旋回した際に、地盤が緩んで移動式クレーンが左に傾き、排水路内にいた被災者の方向に荷が振れ、被災者が鉄板と砂防ダムの上に挟まれて死亡したものの。	30107	6	30～ 49
2015	5	8 ～	木造住宅新築工事現場において、梁の組立作業中、高さ約4メートルの梁上で移動式クレーンによりつり上げられた梁の玉外し作業をしていたところ、玉外し作業が終わる前にフックが巻上げられたため、そ	30202	1	1～9

	9	の反動でバランスをくずして、梁上から墜落した。即日病院に搬送され、意識不明の状態が続いていたが、平成27年12月16日に死亡した。			
2015	10	建設工事現場内において、パレットに積んだポリマーモルタル40袋（2段重ね合計800kg）を、2.63tトラッククレーンを用い荷卸し作業中、荷台上で荷を地切りしたところ、つり荷のパレットが当該クレーンの荷台前方側に接触したため、ブームを4.72m（2段階目）に伸ばし、当該クレーン荷台の横に下ろそうと旋回した際、当該クレーンが横転し、当該クレーン横で操作をしていた被災者が下敷きになった。	30107	2	10～29
2015	1	高速道路の路肩に照明灯を設置する工事。照明灯のコンクリ基礎部分を移動式クレーンの荷台から吊って路肩の穴に入れるべく旋回させていたところ、路肩側に当該クレーンが横転し、誘導者（一次下請の労働者）が移動式クレーンとガードレールとの間に挟まれたもの。荷の重量は1.84t、吊上荷重は2.93t、アウトリガーは道路側は出さず、路肩側は中間張出であった。被災労働者は8日後、搬送先の病院にて死亡したもの。	30301	6	10～29
2015	4	資材置場に炉（約800kg）を降ろそうと、つり上げて旋回したところ、車両積載型トラッククレーンが傾き、横転した。当該クレーンを操作していた被災者は倒れてきたクレーンの下敷きとなり、病院に搬送されたが死亡した。なお、アウトリガーは張り出されていなかった。	150102	6	1～9
2015	7	寺の敷地内において、庭に設置した庭石（寸法：90×70、厚さ17cm、重量：約130kg）の位置を変更するため、つり上げ荷重0.995tの小型移動式クレーン（通称：カニクレーン）を使用して、庭石を吊り上げたところ横転し、ジブの先端が作業の様子を見ていた被災者の頭・背部に激突したもの。小型移動式クレーンはアウトリガーを張り出しておらず、設置した場所も平坦な場所ではなかつ	30199	6	1～9



			た。			
2015	11	13 ~ 14	大規模修繕工事現場の東側にあるこう配5.1°の道路上において、車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）の運転手である被災者が、同現場にて使用された足場材の積載を終えた後、トラッククレーンの脇にてアウトリガーの収納の操作を行っていたところ、アウトリガーが地面から離れた途端に同トラッククレーンが逸走し、アウトリガーと同現場の足場の建地との間に挟まれて被災したものの。	40301	7	10~ 29
2015	10	13 ~ 14	型枠組立工場兼資材置場のトラック車庫前において、型枠資材を積載した車両積載型トラッククレーン（最大積載量6,800kg、つり上げ荷重2.9t）の運転席側のドアと座席との間に胸部を挟まれている状態の被災者が発見されたもの。当該ドアはトラッククレーン右前方に置かれた資材に接触し、ドアの外側を資材に押される形となっていた。なお、死体検案書では死亡推定時刻は13時~15時とされている。	30209	7	10~ 29
2015	5	10 ~ 11	被災者らは、造園工事において、土地造成に伴う石積み作業を行っていた。被災者は、積載型トラッククレーンを用いて、鉄板（重さ約120kg）2枚を当該トラッククレーンの荷台に積み、アウトリガーを格納していたところ、当該トラッククレーンが後退し、隣接して駐車していたブル・ドーザーの排土板と当該トラッククレーンの間にはさまれた。	30109	6	1~9
2015	1	18 ~ 19	被災者は、移動式クレーン等を使用して、本船に鉄スクラップを積込む作業のフォアマン。当日の積込み作業を終え後片付けを行っていた際、被災者は清掃時にでたスクラップを移動式クレーンを使用して船内に積み込もうとしていた事に気付かず、トラック用マーカを当該移動式クレーンに積み込もうと近づいた際、回転していた上部旋回体のカウンターウェイトとクレーン車体の間に頭部を挟まれ死亡したものの。	50202	7	1~9

2015	6	11 ~ 12	<p>回転炉の移設工事において、排気ダクトの解体作業を行っていた際、ダクトを移動式クレーン（つり上げ荷重50トン）で玉掛けし、保持した状態で、移動はしごに労働者Aが上り、ガス溶断により、壁面からダクトを固定していたステーの切り離しを行ったところ、ダクト中間部辺りの接合面（フランジ）のボルトが破断し、ダクトが中折れ、落下し、労働者A、Bに激突した。（A：重傷、B：脳挫傷により約31時間後に死亡）</p>	30302	4	1~9
2015	2	10 ~ 11	<p>雑木林で伐倒された玉切材（原木丸太）を、事業主が操作する小型移動式クレーン（通称ユニック車）の荷台へ積み込む作業中、被災者が当該玉切材から離れようと一歩後ろに下がったとき、斜面に足を取られ約1.7m下に転落した。その直後、吊り荷である玉切材の隣にあった別の玉切材が斜面を転がり出し、被災者の胸部に乗り上げた。当日15時16分胸部重症外傷により搬送先の病院にて死亡。</p>	30309	4	1~9
2015	9	14 ~ 15	<p>被災者は、クレーン機能付きドラグ・ショベル（つり上げ荷重2.9t、クレーンモードへの切り替え状況は不明）を用いて、大型土嚢（0.45m<sup>3</sup>）を移設する作業中、2つの大型土嚢を吊り上げ、左に旋回した際に、ドラグショベルがバランスを崩し河川敷内に転落し、転落時にオペレーターをしていた被災者が運転席外へ投げ出され、ドラグショベルの下敷きになり死亡したもの。</p>	30107	1	10~ 29
2015	3	9 ~ 10	<p>移動式クレーンの運転者であった被災者が、何らかの理由で移動式クレーンの窓から身を乗り出していたときに移動式クレーンのジブが上昇し、頭部と左腕を挟まれ、死亡した。被災者が窓から身を乗り出した理由は不明。災害発生時、被災者は移動式クレーンを運転して現場に到着した直後であり、作業開始前であった。アウトリガーを張り出す前であり、ジブを動かす必要もないことから、ジブを動かした理由も不明である。</p>	30110	7	1~9
		10	<p>町道の待避所を建設する道路改良工事において、移動式クレーン（16t吊りラフテレーンクレーン）を用いて、L型擁壁（PC製、重量</p>			10~

2015	2	～	3. 6 t) を吊り上げて旋回した後、移動式クレーンごと道路下 (谷側) に転落し、運転席が車両の下敷きとなり、移動式クレーンを運転していた被災者が死亡した。	30106	1	29
2014	1	13 ～ 14	脱臭用活性炭容器 (7. 9 トン) の設置作業を移動式クレーンを用いて行っていたところ、単管パイプ上で位置調整の作業を行っていた被災者側に、吊っていた当該容器が振れ、高さ約 3. 5 m 下に墜落した。	30302	1	1～9
2014	2	9 ～ 10	資材の荷卸作業中、トラックの荷台の奥から後部荷卸口までの積荷の引き寄せに使用するためトラックの後方に後ろ向きに停車させていた積載形トラッククレーンを、引き寄せが終了したため前進させようとしたところ、運転者が運転操作を誤り後進させてしまったため、トラックと当該クレーンとの間にいた被災者が双方の荷台後部に挟まれた。	30302	7	10～ 29
2014	2	9 ～ 10	護岸工事にて、土手に擁壁を構築するため、コンクリート打設作業を行っていた。作業は、クレーン仕様付車両系建設機械を使用し、コンクリート打設用のホッパーを吊り上げて起伏および旋回し、打設位置にホッパーを移動し打設していた。約 10 メートルの打設が終了し、次のコンクリート打設のため旋回していたところ車両が転倒し、運転者と車両が川に転落した。	30107	1	50～ 99
2014	3	14 ～ 15	住宅用建材 (外構用の化粧コンクリートブロック) の配送を、3 t 積みトラッククレーンで行っていた。現場にて、荷下ろしのため玉掛けワイヤーを積荷に掛けていたところ、大雨のため足元が滑り、荷台 (高さ約 70 cm) から転落した。	40301	1	30～ 49
2014	3	13 ～ 14	被災者は、橋脚上に構築された吊足場を解体するため、積載形トラッククレーンから吊り下げられたバケットを橋脚上に載せ、バケット内に足場の部材等を積み込んでいた。トラッククレーンを無線操作し、バケットが橋脚から離れたところ、バケットが揺れ、トラッククレーンが横転。トラッククレーンを横転していた被災者が死亡した。	30105	1	50～ 99

2014	6	15 ～ 16	木材を車載型グラップルに積み込む際、グラップルの支柱上部に設けられた操作席に向かおうと、階段状のステップの1段目に足をかけようとしたところ、被災者が想定した位置にステップが無かったため踏み外し、ステップの角にひざを打ち付け、筋断裂の負傷を負い、その負傷が引き金となり、約1ヶ月後に肺塞栓症を発症し、死亡した。	10409	3	30～ 49
2014	6	15 ～ 16	店舗看板の張替え作業の際、被災者ら2名は、トラッククレーンのジブ先端に取付けられた搭乗設備に乗り、作業を行っていたところ、搭乗設備と取付け治具の溶接部が破断し、約6mの高さから搭乗設備と共にアスファルト上に墜落した。	30209	1	1～9
2014	6	15 ～ 16	店舗看板の張替え作業の際、被災者ら2名は、トラッククレーンのジブ先端に取付けられた搭乗設備に乗り、作業を行っていたところ、搭乗設備と取付け治具の溶接部が破断し、約6mの高さから搭乗設備と共にアスファルト上に墜落した。	30209	1	1～9
2014	6	16 ～ 17	移動式クレーンをプレハブの脇に寄せ、プレハブを吊り上げ、後方旋回させ、トラックの荷台に載せようとしたところ、移動式クレーンが転倒し、移動式クレーンを運転していた被災者がトラックとの間に挟まれた。尚、移動式クレーンの右側アウトリガーは張り出されていなかった。	40301	2	10～ 29
2014	7	16 ～ 17	トレーラーの荷台に積んだ六脚ブロックをオールテレーンクレーンで吊り上げ、仮置き場に降ろす作業中、吊り上げた六脚ブロックが既設の六脚ブロックと接触し、反動で六脚ブロックがずれ動き、合図をしていた被災者は、オールテレーンクレーンのアウトリガーと六脚ブロックの間に挟まった。	30111	7	10～ 29
2014	7	5 ～ 6	積載形トラッククレーンで国道を走行中、対向車線のフェンスを突き破り、約6メートル下の道路に転落した。	30104	17	10～ 29
2014	8	12 ～	事務所へ戻る途中、村道の道路脇から約15m下の谷に転落し、移動	170209	17	1～9

		13	式クレーンの下敷きとなり、死亡した。			
2014	9	10 ～ 11	定置網の錨ロープ清掃作業中、定置網へ錨ロープを取り付けようと、巻きロープをキャプスタンを使い巻き上げた際、ロープをクレーンで海面まで巻き上げたところ、巻きロープが切れ、クレーンのフックが被災者にあたった。	70201	6	50～ 99
2014	9	9 ～ 10	建設工事現場にて、灰分散装置を据え付けるため、移動式クレーン運転士に合図し、つり上げて移動していた際、つり上げた灰分散装置が建屋のコンクリート製梁に接触し、状況を確認しようと立ち位置を変えていたところ、玉掛けしていたクランプが外れ、灰分散装置が落下し、被災者の方に倒れかかり、コンクリート基礎の間に挟まれた。	30201	4	10～ 29
2014	10	12 ～ 13	土嚢を積載型トラッククレーンとダンプトラックに積み込み、積載型トラッククレーンのアウトリガーを緩めたところ、クレーンが後退し、アウトリガーとダンプトラックとの間に挟まれた。尚、積載型トラッククレーンを停車していた場所は、約5度の坂道であった。	30105	7	10～ 29
2014	10	10 ～ 11	ラフタークレーンのアウトリガーの調整作業を行っていたところ、クレーンが転倒し、クレーンに積まれていた鉄板3枚が被災者の頭部に落下した。	30105	2	1～9
2014	10	16 ～ 17	資材置き場にて、移動式クレーンを使用し、敷鉄板を移動させようと車体側方で吊り上げ、車体後方に向け旋回させたところ、移動式クレーンが吊り荷側に転倒し、トラックの荷台とキャビンの間で移動式クレーンを操作していた被災者がキャビンの下敷きとなった。	30106	2	10～ 29
2014	12	15 ～ 16	クレーン機能付ドラグショベルでコンクリートブロックを吊り、護岸堤防に設置する際、被災者が、一旦地上に下ろした荷の横に入り、ブロックの位置決め作業を行っていたところ、クレーン機能付ドラグショベルが不意に旋回し、被災者がつり荷のブロックと既に設置してあったブロックとの間に挟まれ、死亡した。	30107	6	30～ 49
		11	事業場の資材置き場にて、積載型トラッククレーンの荷台上で足場資			

2014	12	～	材を下ろす作業中、バランスを崩し、荷台に平積みされた足場板上から地面に転落した。	30209	1	1～9
2013	6	～	被災者は、回収した産業廃棄物（電線くず）を、金属とプラスチックに分離する作業場において、プラスチックが入ったフレコンバックを積載型小型移動式クレーンで吊り上げ荷積みする作業を行っていた際、当該クレーンの吊りフックに掛けられたフレコンバックの吊り紐を外す作業を行っていたところ、当該クレーンの荷台上又はフレコンバック上から作業場のコンクリート床上に墜落した。尚、被災者は、保護帽を着用していなかった。	80109	1	1～9
2013	6	～	長さ3 mから4 mの杉の間伐材（玉切材）をグラップルを使用してトラッククレーンの荷台に積み込み、材が落下しないように荷締め作業を行うため、トラッククレーン荷台に積み込んだ材の上（高さ3 m）に上ったところ、何らかの原因で地面に墜落した。尚、周囲で作業を行っていた労働者もいたが、被災者の墜落を目撃した者はいない。また、墜落時に墜落時保護用の保護帽は着用していた。	60201	1	1～9
2013	4	～	被災者は、杉の玉切材（3～4 m）の荷積み作業にて、玉切材をワイヤロープで固定しようと積載型の移動式クレーン荷台に積み上げた玉切材の上に乗ったところ、2.6 m下の地面に墜落した。	60201	1	1～9
2013	8	～	仮設道路（幅約4メートル、勾配約14%）を後進中の車両積載形トラッククレーンが法肩から脱輪して約5 m下に転落した際、助手席から車外に投げ出された被災者は、車両積載形トラッククレーンの下敷きになった。	30108	1	10～29
2013	9	～	災害復旧工事現場において、被災者は、同僚とホイールクレーンでホッパーをつり上げ生コン打設作業を行った。作業終了後アウトリガーを収納し、敷板を片付け、作業日報に作業終了の確認のサインを受領するため、パーキングブレーキをかけホイールクレーンのエンジンを停止し運転席から降りたところ、角度9度の坂道に停車していたホイールクレーンが動き出し坂を下り始め、ホイールクレーンに巻き	30209	7	1～9

			込まれた。			
2013	2	14 ～ 15	35トントレーラーの荷台に積んでいた鉄スクラップを、アタッチメントを換えたドラグショベル2台（1台はグラップル、1台はリフティングマグネット）を用いて地上へ下ろしていたところ、荷台上に立ち入った当該トレーラーの運転者が、このリフティングマグネットの下敷きとなった。	150102	7	10～ 29
2013	7	14 ～ 15	船の改修を行うため、船尾左舷に取り付けられた鉄製の台座（重量1.35t）の撤去作業で、移動式クレーンにて吊り上げるため補巻フックを台座に掛け（海中への落下防止）溶断作業を行っていたが、溶断が終了したとたん、台座荷重がフックに加わりクレーンの定格荷重（約1t）を超え、移動式クレーンは停泊していた船舶方向に転倒し、運転席が船舶に押しつぶされ被災者が運転席に挟まれ死亡した。	80409	2	10～ 29
2013	6	10 ～ 11	工場内の岸壁付近に設置したクローラクレーンを使用し、木製パレットに鉄板約10枚（1枚の重さ20～50kgの鉄板を積み重ねた状態）等載せた荷を、岸壁に接岸していた貨物船の船倉に降ろすため巻下しの作業を行っている際、木製パレットに載せてあった鉄板が落下し、合図を行っていた被災者に当たった。	11209	4	30～ 49
2013	4	9 ～ 10	河川護岸改修工事現場で、川沿いの道路に並べて敷いていた敷鉄板（1枚約800kg）を撤去するため、被災者運転のクレーン機能付き（0.9t吊）ドラグショベルで鉄板1枚を吊上げ、鉄板が川の上を通るように旋回していたところ、ドラグショベルごと川に転落し、被災者はドラグショベルの下敷きになった。	30199	1	1～9
2013	12	7 ～ 8	敷地内を徒歩にて移動中、地面に落ちていた物を拾おうとしてしゃがみかけたところ、バックで走行してきた11tトラッククレーンにひかれた。	150102	7	1～9
2013	9	9 ～	クローラクレーン（つり上げ荷重59.0t）を解体し、トレーラーに載せて搬送するため、被災者は上部旋回体の下に入りクローラ部を固定するボルトを外していたところ、旋回してきた上部旋回体の旋回	30209	7	30～ 49

		10	フレームとクローラの間で頭部を挟まれた。			
2013	6	11 ～ 12	クレーン機能付きドラグショベル（つり上げ荷重2.9t）を用いて、L型擁壁（重量1.8t）を3点つり（壁部2箇所・底盤部1箇所）にて仮置きを終了させ、被災者が壁部2箇所の玉外し作業を終えたところ、底盤部の玉外し作業が残っているにも関わらず、運転者は玉外し作業が完全に終了したものと思い込み、同ドラグショベルのブームを上昇させた際、L型擁壁が倒れ、L型擁壁と法面の間にいた被災者が挟まれ死亡した。	30201	6	10～ 29
2013	11	14 ～ 15	建築現場において移動式クレーンを使用し、荷（押出成形セメント板）を地上から6階まで揚重中、高さ約20メートルの位置において、荷が玉掛用具から外れて落下し、地上で玉掛けを行っていた被災者の頭部に当たった。尚、荷は、長さ2.5m、幅60cmの板8枚、重量約780kgであり、玉掛用具は、バルンサーと呼ばれる荷取り治具にナイロンスリングを取付たものであった。	30201	4	10～ 29
2013	10	9 ～ 10	台風接近に伴い、準備していた構内冠水時の対応用の排水ポンプと排水ホースを片付ける作業中、元請労働者が運転するつり上げ荷重7tのホイールクレーンを前進移動させたところ、その傍らで排水ホースの巻き取り作業をしていた被災者（下請労働者）が轢かれた。	170209	6	30～ 49
2013	1	9 ～ 10	被災者は、建売住宅（3棟）の新築工事現場において、当該現場の前面道路にトラッククレーンを止め、現場手前の仮置場に土台材料を荷降しする作業を行っていた。玉掛け作業及び荷降ろし作業は、被災者が一人で行っていた。材料の一部の荷降しを終え、再び荷台上で、玉掛け用の繊維ロープを材料にかけていたところ、何らかの原因で2.4m下の道路上に墜落した。	40301	1	10～ 29
2013	8	8 ～	被災者は、道路工事中に地中に埋まっていた既存のU字溝のフタ（6枚、計1.7）が見つかったため、トラック積載型クレーンにより発注者の資材置き場に運搬した。発注者より積卸場所の指定を受けた	30106	2	10～ 29



		9	後、クレーンを旋回させたところ、車体が傾き、コンクリート製の資材との間に挟まれた。			
2013	10	11 ~ 12	被災者は、事業所構内において運転してきたトラックから降り、一旦、構内入口の守衛所に向かおうとしたところ、停車させていたトラックが動き出した。被災者は、走ってトラック前方に回り人力で停車させようとしたが、トラックはそのまま前方に停車していた別のトラックの側面に衝突し、被災者もそのトラック間に頭部を挟まれ、頭蓋骨陥没により死亡した。	150103	6	10~ 29
2013	11	14 ~ 15	被災者は、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.63トン）により、除染した土砂等を入れたフレキシブルコンテナバッグ（1.3トン）を山道脇の空き地に降ろすため、クレーン操作を行っていたところ、積載型トラッククレーンが横転した。これにより、操作をしていた被災者は積載型トラッククレーンのキャビンと、近くに敷き並べられていた単管パイプの間に挟まれ、圧死した。尚、目撃者はいない。	30309	6	1~9
2013	7	11 ~ 12	傾斜地にある霊園内において、墓石の解体・撤去作業に使用する小型移動式クレーン（以下「カニクレーン」と記す。）を走行姿勢で作業場所まで移動していた。被災者が操作して約19度の階段を後退で登っていたところ、カニクレーンがバランスを失い階段下方に回転した際に投げ出され、回転後に横倒しになったカニクレーンの下敷きになった。	30209	7	1~9
2013	8	4 ~ 5	熱処理が終わった鋳鉄ピストンを移し替える作業において、被災労働者は、各段35個のピストンが載っている2段式パレットのうち、上段のピストンが載っているパレットに吊りチェーンを掛け吊り上げようとしたところ、移動式クレーン（吊り上げ荷重200kgのキャスター付きジブクレーン）が転倒し、クレーンの支柱とピストンが載ったパレットの間に被災労働者が挟まれた。	11509	7	100 ~ 299
			排水路の堰止のため、土嚢を小型移動式クレーン（吊り上げ荷重2.			

2013	12	9 ～ 10	9 tトラッククレーン) で吊り下ろしていたところ、クレーンが傾き、操作していた被災者がトラック脇に仮置きされていた土嚢とクレーンの間に挟まれ、外傷性窒息により死亡した。尚、道幅が狭く、アウトリカーを最大に張出すことができなかった。	30107	7	1～9
2013	7	14 ～ 15	被災者は、道路拡幅工事現場において、ドラグ・ショベル（機体重量5.5 t、クレーンアタッチメント付つり上げ荷重1.7 t）を用いて、敷き鉄板（重さ約1.5 t）をつり上げ、アームを旋回させたところ、ドラグ・ショベルが転倒した。旋回場所が堤防のきわであったため、ドラグショベルは約5 m下の川へ屋根側から転落し、キャビンが潰されことから脱出できず溺水した（川の深さ、約0.3 m）。	30106	1	10～ 29
2012	10	14 ～ 15	資材置場で小型移動式クレーンの荷台からコンクリート製ブロック（重さ約2 t、1.8m×0.8m×0.6mの直方体）を吊り下ろす作業を単独で行っていた被災者は、吊り荷（コンクリート製ブロック）と当該場所に集積されていた別のコンクリート製ブロックの角との間に頭部を挟まれ、脳挫傷により即死した。なお、被災者は、リモコン操作により当該小型移動式クレーンを運転していた。	40301	7	1～9
2012	10	16 ～ 17	橋台の基礎である深礎杭（直径2.5m、深さ8m）の建設工事において、深礎杭工事の掘削で発生した土石（ズリ）を鋼製のバケットに入れて、積載型移動式クレーン（吊上げ荷重2.9t）により吊上げ、地上の坑口付近に仮置きしていた。被災者は積載型移動式クレーンを運転し、当該バケットを5tダンプトラックの荷台に移動させる際、突然当該移動式クレーンが転倒し、20m下の崖に転落した。	30105	1	10～ 29
2012	5	9 ～ 10	被災者は、事業場に設置してある鉄屑裁断機の点検作業を終わらせ事務所に戻るため、他の作業者が運転する移動式クレーン（車両系建設機械のバケットをリフティングマグネットに交換したもの）の後方を移動していたところ、移動式クレーンが旋回し、移動式クレーンのカウンターウエイトと集積された鉄屑の間に挟まれた。	150102	7	1～9
			小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.95 t、建柱車仕様）を用い、コ			

2012	6	14 ～ 15	ンクリート製電柱（2.59t、長さ17.05m）を当該車両の荷台に積み込むため、電柱を1本づりで約1mつり上げ、被災者が電柱の一端を押しながら電柱を回転させていた際、前方のアウトリガーが浮き上がり、車体がつり荷側に傾いて電柱が落下し、被災者が電柱の下敷きになった。	30301	4	1～9
2012	7	12 ～ 13	駐車場建設工事現場において、被災者が65 t 吊りのクローラクレーンの主巻の玉掛け用具に掛けられていた荷の玉はずしを終えた後、次の作業に移るため、クレーン運転手が主巻フックを巻上げ、補巻フックを巻下げたところ、高さ11.8mの位置の補巻フックに掛けられていた玉掛け用具（約20kg）が落下し、その下にいた被災者の頭部に激突した（保護帽の着用有り）。なお、災害発生時に主巻・補巻共に荷を吊っていないかった。	30201	4	1～9
2012	2	10 ～ 11	自社所有の焼却炉の修理のため、焼却炉蓋を移動式クレーンで吊り上げて外し、被災者の合図で地面に下ろしていたところ、下半身が蓋にはさまれている被災者が発見された。	30199	6	10～ 29
2012	4	11 ～ 12	道路舗装工事現場で一般車両等の交通誘導を行っていた際、現場作業員が積載型トラッククレーンの運転席に乗車せずに、運転席の窓の外からエンジンを掛けたところ、エンジンの始動と共に車両が動き、前方で交通誘導を行っていた被災者に激突し、車両右前輪に被災者の左足が轢かれ、入院加療先の病院で敗血症性ショックにより死亡した。	170201	17	10～ 29
2012	12	8 ～ 9	敷地内で、生ゴミ回収用の保冷車のフロント硝子を拭いていた被災者は、背後からバックしてきた同僚が運転する車両積載型トラッククレーンとの間に挟まれて死亡した。	150102	6	1～9
2012	5	7 ～ 8	被災者はガントリークレーンの塗装工事準備作業として、足場資材を当該クレーン上部に荷上げする準備作業を開始。当該作業は、吊上荷重100 t 移動式クレーンの最長ジブでの作業が必要なため、補助ジブを主ジブ横に取付後、オペレーターが主ジブを起伏した際に補助ジブが外れ、移動式クレーン上の補助ジブ直下付近にいた被災者2名の内1名	30209	4	30～ 49

			が、補助ジブとアウトリガーにはさまれ死亡し、他1名は重傷を負った。			
2012	9	8 ～ 9	豪雨により崩壊した林道の復旧工事現場において、足場の解体材を移動式クレーン（積載型トラッククレーン、つり上げ荷重2.9 t）を用いて積み込んだ後に発生した災害。被災者は当該クレーンを移動させようと、アウトリガーを十数センチ程度引き上げたところ、当該クレーンが後退したことにより、アウトリガーと鋼製擁壁との間にはさまれた。	30199	7	100 ～ 299
2012	1	13 ～ 14	木製型枠を積載型トラッククレーンの荷台に積んで、資材置場に向かって県道走行中、積み荷が崩れそうになったため、被災者は路肩にトラックを止め、三段ある積み荷の最上層をクレーンで吊ったところ、二段目の型枠の束（長さ4m×幅25 cmの木製型枠が約20束、重さ約200 kg）が荷崩れし、その下敷きとなり死亡した。	30201	4	10～ 29
2012	5	8 ～ 9	住宅増改築工事において、移動式クレーンを用いて生コンを入れたコンクリートバケットを吊り上げ、基礎打設作業を行っていたところ、移動式クレーンを設置した地盤が崩壊し移動式クレーンが倒れ、移動式クレーンのジブが基礎作業を行っていた被災者の背面に激突した。	30202	6	1～9
2012	9	14 ～ 15	建設現場でドラグショベルのバケットを交換するため、被災者は単独で自社の移動式クレーンで搬送し下ろそうとしていたところ、移動式クレーンが転倒して地面との間に挟まれ死亡した。	80409	6	1～9
2012	7	10 ～ 11	被災者他3名で墓石の設置作業を行っていたところ、被災者がトラッククレーン（2.63 t）を操作していた際に、吊り荷の墓石（約200 kg）が被災者の頭上に落下して死亡した。	30309	4	1～9
2012	6	9 ～ 10	移動式クレーンを現場に向けて林道を走行させていたところ、斜面において移動式クレーンが横転しそうになったことからエンジンを切り、横転する側に被災者他1名で支えに入った。しかし、支え切れずに、逃げ遅れた被災者が移動式クレーンとともに転落し、移動式クレーンの下敷きとなって死亡した。	30209	1	1～9

2012	11	16 ～ 17	街路灯の新設及び老朽化した街路灯の撤去を行う工事の資材置き場において、撤去された街路灯のコンクリート基礎部分を移動式クレーン（車両積載型トラッククレーン）を用いてつり上げて旋回した際、当該クレーンがバランスを崩して倒れ、当該クレーンを運転していた被災者が当該クレーンと資材置き場に置かれていたコンクリートブロックとの間に身体を挟まれて死亡した。	30309	6	10～ 29
2012	1	13 ～ 14	積載型トラッククレーンを使用し、荷台から小型ドラグ・ショベルを降ろすためにつり上げていたところ、積載型トラッククレーンが転倒して、運転を行っていた被災者は、後方の雪壁と積載型トラッククレーンとの間に挟まれた。なお、被災者は小型移動式クレーンの運転に係る資格を有していなかった。	30209	6	1～9
2012	10	15 ～ 16	被災者はクレーン作業終了後、傾斜した路面に駐車しているホイールクレーンを撤収しようと、駐車用ブレーキをかけないまま、車外の車体左側側面でアウトリガーの格納操作中、当該クレーンが路面を逸走した。被災者は一旦運転席にしがみつき、その後下の小段に飛び降りたところ、当該クレーンが被災者の上に転落し下敷きとなった。	30199	1	10～ 29
2012	3	14 ～ 15	道路工事現場において、請負業者が下り坂（勾配約10%）の途中に駐車した4 t 積み積載型トラッククレーンが、無人のまま下り坂を後退し、下方にいた被災者に激突した。	30199	6	50～ 99
2011	8	16 ～ 17	道路改良工事において、被災者が片付け作業を行っていたところ、移動式クレーン仕様（つり上げ荷重1.7 t）に切替え、ランマーをつり上げてきたドラグ・ショベルのクローラに激突され死亡したもの。	30106	6	30～ 49
2011	9	11 ～ 12	工場の敷地内にある屋外コンクリート製品置き場において、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93トン）を使用してL字型の擁壁用ブロック（製品荷重約2.5トン）をリモコン操作により荷台に積み込む作業をしていたところ、当該クレーンの旋回ポストの取付ボルトが破断し、旋回ポストが荷台側に傾き、L字型の擁壁用ブロックが荷台に落下し、被災者が当該ブロックの下敷きになった。	40301	4	10～ 29

2011	10	11 ～ 12	小型移動式クレーンに搭乗出来る設備を装着して、これに乗って電光看板の点検を行っていた時、搭乗出来る設備と電光看板に挟まれ死亡したもの。	170209	7	1～9
2011	1	14 ～ 15	埠頭のスクラップ積込場所において大型トレーラー荷台の鉄くずを荷降ろし中、被災者が荷台の中に入り込んで鉄くずを集めているのに気付かずに、埠頭のクレーンオペレーターがクレーンのアームを荷台の中に入れてしまったため、アームと荷台の床との間で押し潰された。	40301	7	10～ 29
2011	12	16 ～ 17	資材置き場で4 tトラッククレーン（定格荷重2.9 t）から荷（ダンプのタイヤ洗浄機）を下ろしていたところ、荷が荷台の真横に来たところで倒れてきた。操作者の他に、荷を置く予定の場所に被災者がいたが、倒れたトラッククレーン運転席上部と倒れた方向に置かれていた乗用車ボンネットとの間に被災者が挟まれた。操作者はその下の空洞部分に倒れたため無事だった。操作者は、玉掛けと小型移動式クレーンの資格を有していた。	30199	2	1～9
2011	3	18 ～ 19	120 tクローラクレーン操作者が立坑内（深さ3.5 m）に吹付用コンクリートホッパー（重量4.3 t）を荷降ろししていたところ、被災者が坑内にて高さ1.5 mの吹付機械の上へ、据付はしごを昇っているところで、荷と吹付機械に、激突されて被災した。被災者本人がクレーン操作者と無線機を使用して荷降ろし作業を行っていた。無線での通話状態は明瞭であった。	30101	6	50～ 99
2011	10	13 ～ 14	足場材の資材置場にて、積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93 t）を使用し、結束された足場材60枚（835 kg）をトラックの荷台から降ろす際にトラックのタイヤが浮き、ゆっくりと転倒した。なお、転倒した際に5段ブームのうち、4段ブームが被災者の脊髄を押しように激突した。	30201	6	1～9
		8	原共同墓地にて、震災により倒れた墓石を建て起こす作業のため、小型移動式クレーンに積んだミニクローラクレーンを当該小型移動式クレーンを用いて地上に降ろそうと吊り上げたところ、アウトリガーが			

2011	6	～ 9	地中に埋まり、小型移動式クレーンが傾き、ミニクローラクレーンと側方に停車していた乗用車の間に挟まれ、胸部を圧迫されて死亡したものの。	10909	6	1～9
2011	2	15 ～ 16	クレーン付貨物自動車で建設現場のゴミかごを回収し、自社の土場でゴミの分別後、同貨物自動車を所定の停車位置に止めようとしたが、停車位置を超え約40センチの段差を下りた衝撃で、被災者はハンドルに腹部を強打した。	150102	3	1～9
2011	2	11 ～ 12	建築現場に床材を搬送するために入場し、荷降ろし作業は終了していたが車載型トラッククレーンのエンジンからクレーン部に動力を伝えるシャフトに右手を巻き込まれ、顔、腹部を挟まれた状態で死亡していた。	40301	7	30～ 49
2011	7	15 ～ 16	キルン改修工事現場において、トラッククレーン（つり上げ荷重200t）のカウンターウェイトの交換作業中、同クレーンが旋回したところ、車体と上部旋回体の間に腰部、両足を挟まれて負傷した。その後、市内の病院で入院加療を行っていたが、8月9日に死亡した。	30309	7	10～ 29
2010	12	5 ～ 6	国道において、被災者が運転するトラックが走行していたところ、ガソリンスタンドから前方をよく見ずに出てきたラフタークレーンのアーム部がトラックのコンテナ左上部に衝突し、そのはずみで道路標識の鉄柱にトラックが激突したものの。被災者は病院に搬送されたが、死亡が確認された。	40301	17	100 ～ 299
2010	12	8 ～ 9	社屋前の下倉庫で現場用資材をクレーン搭載トラックの車荷台に積み込みし、被災者を荷台に乗せたまま上倉庫まで移動するため、市道に出て車両をバックさせていたが、道幅が狭くバックがうまくいかず、運転者が方向転換させようと前進させた際にバランスを崩して被災者が荷台上から転落し、右側後輪に轢かれた。	30199	1	1～9
2010	11	8 ～	港内において、車両積載型トラッククレーンの荷台上において側面に停船させた3m下方の船上へ網を積み込む作業を行っていたところ、	70201	1	10～

		9	当該荷台上より船上に墜落したものの。墜落防止措置はなく、保護帽を着用していなかった。			29
2010	10	16～17	積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）の荷台に積んであった荷（廃車するトラックの運転室等）を、被災者が当該クレーンを操作し降ろす作業をしていたところ、当該クレーンが転倒し、被災者がその下敷きとなった。アウトリガを張り出しておらず、定格荷重を超えていたとみられる。	11701	6	1～9
2010	10	12～13	海水配管交換工事において、撤去する既設配管及び台座点付け箇所を切断後、当該配管を移動式クレーンでつり上げようとしたところ、つり上げた配管が振れて被災者の右側頭部に激突した。	30309	6	1～9
2010	10	10～11	ほ場整備工事において、現場内に敷設されていたコンクリートU字溝を地元地区から「再利用したい」と要望を受け、車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.33t）の荷台にU字溝及び掛け蓋を載せ、地元地区の私有地に運搬し、同クレーンを使用して荷台に積んでいた掛け蓋8枚（重さ760kg）をつり上げ旋回したところ、車体が倒れ、クレーンを操作していた被災者が車体の下敷きとなった。アウトリガを最大張出しせずに荷を吊ったため、旋回・移動中に過荷重になったとみられる。	30109	2	1～9
2010	8	22～23	宿泊施設になっている浮きクレーン（つり上げ荷重310t）内の居室に被災者がいないことに気が付き探していたところ、海中に沈んでいる被災者を発見した。なお、同クレーンは強風を避けるため、漁港に停泊中であった。小用のため甲板にいた被災者が海中に転落して溺死したとみられる。	30111	10	1～9
2010	7	9～10	工場（S造平屋建）解体工事現場において、25tラフタークレーンを用いて、鉄骨の梁（H鋼、重量約1t）を2本つり上げて左旋回中、ブーム全体が右方向にしなりだし、慌てて右旋回をしたところ、補助ジブ（2段）の先端側の根本部分から折れ曲がったため、つり上げていた鉄骨の梁が、次の鉄骨のボルトを外していた被災者に落下し	30201	4	1～9



			たもの。移動式クレーンの定格荷重を超えたとみられる。			
2010	7	13 ～ 14	被災者他1名で、情報ケーブルを埋設するためのコンクリート製のマス（約2.4 t）を積載型移動式クレーン（定格荷重が2.9 t）でつり上げ作業中、移動式クレーンが転倒しそうになったため、被災者らは移動式クレーンの荷台をドラグショベルのバケットで抑えた後、作業に戻ろうとした際、移動式クレーンが転倒し、被災者は移動式クレーンとガードレールの間にはさまれた。	30106	7	10～ 29
2010	7	20 ～ 21	被災者は、杭掘削準備作業を行っていたところ、つり上げ荷重4.9 tのクローラクレーンを運転中、運転席より身を乗り出した姿勢で誤って旋回レバーに体の一部が接触し、現場内の中間杭にはさまれ死亡したとみられる。	30199	7	50～ 99
2010	7	17 ～ 18	被災者は会社からスクラップを積んだトレーラーを運転し、会社内のスクラップヤードまで運搬した。別の会社の社員がドラグ・ショベルのバケットに替えてリフティングマグネットを装着した移動式クレーンでトレーラーの荷台のスクラップの荷卸し作業中、被災者がいないことに気づき、同僚と探したところ、荷台の中で外傷を負って倒れている被災者を発見したもの。荷卸し作業中の荷台の中に入ったことにより、荷台とリフマグに挟まれたとみられる。	40301	7	1～9
2010	5	13 ～ 14	委託先から10 tトラックで回収したケイ素鋼板スクラップを同僚がリフティングマグネットを装着した油圧ショベル（マグネット仕様機）を使い、鉄製の箱に移し替えていた際、被災者がトラックと鉄製の箱の間に何らかの理由で立ち入り、マグネット仕様機の旋回と共に動いたトラックと鉄製の箱の側面との間に頭部を挟まれた。	80209	6	10～ 29
2010	4	12 ～ 13	杉（樹高約26 m、胸高直径80 cm）の伐採作業で、樹高が高ことから一度中間部で切断することとし、移動式クレーン（25 t）の補助フックに杉の上方部分を玉掛けし、主フックで作業員2人を乗せた搭乗用搬器を吊った状態で杉を切断したところ、移動式クレーンに定格荷重を超えた荷重がかかり、前のめりに転倒して、同時に搬器は	60201	2	1～9

		川に落下し、搬器に乗っていた2人のうち1人が死亡し、もう1人は顔を負傷した。			
2010	4	被災者は事業場敷地内において、車両積載型トラッククレーンを使用し、廃材の石膏ボードを当該クレーンの荷台に積み込み、処理場へ運搬する予定であった。積み込み作業終了後、使用していた当該クレーンのアウトリガーを一番高い位置にセットした状態で、何らかの理由により当該クレーンの車体下部に潜り込んでいた。その後、クレーン駆動用のシャフト部分に右腕が巻き込まれている状態で発見されたが、死亡が確認されたもの。	150102	7	30～49
2010	3	被災者は、次の収集運搬作業等の準備のため積載型トラッククレーンを使用して1人で作業を行っていたが、その際アウトリガーを最大に張り出しをせず、中間張り出しの状態であったこと、また、作業場面に水たまりがあり、地盤が軟弱な状態にもかかわらず敷鉄板等の措置を講じないまま使用していたことで、収集箱をつり上げた際にクレーンが転倒し、運転席と直近にあった別の収集箱との間にはさまれている状態を発見された。	150102	7	10～29
2010	3	間伐事業現場において、被災者（玉掛け者）と同僚（移動式クレーン運転者）の2名で車両積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）を使用し、鉄板5枚（3m×1.5m、重さ約750kg）を地面に仮置きする作業中、5枚目の鉄板を地面に下ろした際、当該鉄板が荷振れし、荷の介添え作業を行っていた被災者が当該鉄板と車両積載型トラッククレーンの荷台に挟まれ、胸部圧迫により死亡したものの。	60209	7	1～9
2010	3	植栽作業中、移動式クレーン（吊り上げ荷重2t）でドラグショベルを塀越しに吊り下ろす際、遠方で吊り下ろしてしまったため定格荷重を超え、移動式クレーンが傾き、クレーン本体と塀の間に挟まれたものの。被災者は移動式クレーンの運転に必要な資格を有していなかった。	30199	7	1～9

2010	3	<p>積載型移動式クレーンに鉄筋材料を積み込む作業で、材料を積み込むために使用する橋形クレーンの走行上に当該移動式クレーンのジブが掛かるためジブを旋回させたところ、ジブがすでに積み込み固定する前の長さ9.9mの鉄筋の束接触し、鉄筋が被災者の上に落下したものの。</p>	40301	4	10～29
2010	2	<p>鉄筋コンクリート造の病院新築工事現場において、移動式クレーンを使用して型枠工事用の資材を1階のフロアーから中庭吹抜け部分に移動させる荷上げ作業中、資材を吊り上げたところ、後部アウトリガーが浮き上がり、そのまま移動式クレーンが転倒し、2階スラブ上で作業を行っていた被災者の頭部にジブが直撃し死亡した。</p>	30309	6	30～49
2010	2	<p>工事現場にて、3名でユニック車（つり上げ荷重2.9t）を使用して鉄板4枚（重量約3.2t）の荷降ろし作業中、オペレーターの方</p> <p>向にユニック車が過荷重により転倒し、その下敷きになったオペレーターが死亡したものの。ユニック車の荷台の上にいる労働者1名も同時に被災した。</p>	30199	2	1～9
2010	2	<p>道路新設工事において、クレーン仕様のドラグ・ショベル（吊上荷重2.9t）を用いて、車道の脇にコンクリート2次製品（0.63t）を設置する作業中、同製品を吊り上げた時にドラグ・ショベルの上部旋回体が突然、右旋回して、同製品に玉掛けをした被災者に激突したものの。</p>	30106	6	10～29
2010	1	<p>9</p> <p>移動式クレーン（最大つり上げ荷重25t）にて、1階部分梁の型枠（全長960cm、幅80cm、高さ80cm、推定荷重440kg）を作業半径33mの据付位置へ移動させるため起伏操作を行ったところ、能力を超えて荷を吊るために過負荷防止装置を切って作業を行ったため、起伏操作によりブームを倒すことで過負荷状態となった。このため、移動式クレーンが転倒し、荷の据付場所付近にいた被災者の頭部にジブが激突し被災したものの。被災者は、病院で死亡が確認された。</p> <p>10</p>	30209	6	10～29

2009	11	14 ～ 15	軌条台車上のロールを切断し、ロコクレーンにて切断済ロールを移動させるため、左前方アウトリガーを手動で張出し後、切断済ロールに玉掛けワイヤーを掛け、右前方のアウトリガーの張出しを行っていたところ、クレーンが転倒し、被災者は、別の地上に置いてあったロールと倒れたクレーンにはさまれた。	11001	2	300 ～ 499
2009	7	13 ～ 14	被災者は墓の建立作業に使用した小型移動式クレーンを後進させながら、作業現場から坂下に駐車しているトラックまで運搬していたところ、「ドン」という音がしたため同僚が駆けつけると、被災者と小型移動式クレーンが倒れていた。小型移動式クレーンは「かにクレーン、ミニクレーン」などと呼ばれるもので、運転席はなく、運転者は地上から走行レバーを操作し、走行するクレーンと共に歩きながら移動する構造である。	30309	17	0
2009	2	9 ～ 10	被災者は、共同作業（玉掛け作業兼合図者）と共に、トレーラーの荷台に積んだ2個の消波ブロックの一方に玉掛けを終え、合図者の無線合図により移動式クレーン運転者が巻き上げようとしたところ、消波ブロックが傾きもう一方の消波ブロックとの間にはさまれた。	30111	7	1～9
2009	11	11 ～ 12	敷地内廃材等処分整地工事現場において、被災者が移動式クレーン（車両積載形トラッククレーン）を用いてコンクリートの塊（重量1.6t程度）を当該移動式クレーンでつり上げて荷台に積み込む作業中、移動式クレーンが転倒し、車外で操作していた被災者が、移動式クレーンの下敷きになった。	30199	6	10～ 29
2009	4	14 ～ 15	住宅新築工事現場において、積載形トラッククレーン（2.02tつり）で運んできた荷（木製コンパネ27枚他を束ねて一つにしたもの、重量計約600kg）を玉掛けし、現場に降ろそうとした時、当該クレーンが横のブロック壁に寄りかかるように倒れ、運転していた被災者がその間にはさまれた。なお、倒れた側のアウトリガーは折れていた。	30202	6	10～ 29
		10	前日に伐採した木（根株：径1m、長さ3.0m、質量約1.3t）を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重：2.93t）で荷台に積込作業を行ってい			10～

2009	11	～ 11	たところ、同クレーンを運転操作していた被災者が、根株と荷台にはさまれた。	30301	6	29
2009	3	15 ～ 16	コンクリートプラント解体工事現場において、鋼鉄製のセメントサイロ（高さ約20m、直径約6m）を解体するため移動式クレーンでサイロ上部をつり、移動式クレーン側の支柱2本をガス溶接機で溶断し、ドラグ・ショベルの圧砕機（アタッチメント）で溶断した支柱を抜いたところ、サイロが倒壊を始め、移動式クレーンの運転者が倒壊したサイロの下敷きとなった。	80409	5	1～9
2009	11	10 ～ 11	新築工事の建築材料の運搬の委託を受け、被災者がトラッククレーンにて運搬して来た。他の移動式クレーンにて積み荷を下ろす作業に取りかかろうとした時、トラッククレーンが動き出し、止めようとした被災者がトラッククレーンと壁にはさまれた。	40301	7	1～9
2009	5	17 ～ 18	他社の資材置き場において、2tトラックと車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）を並列に配置して、2tトラックに積まれていた足場材を同トラッククレーンを使用して被災者を含め3人により荷下ろし作業中、つり荷（くさび式足場の水平材：重量約570kg）を所定の場所に下ろそうとしたところトラッククレーンが傾き、同クレーンと2tトラックとの間で操作していた被災者がはさまれた。	30201	2	1～9
2009	5	14 ～ 15	祭りの片付け作業（神社境内入口に立てたのぼり旗の撤去作業）において、ホイールクレーン（つり上げ荷重26t）を使い、のぼり旗木製支柱を倒そうとしたところ、クレーンジブ先端にのぼり旗が引っ掛かったため、クレーン運転手がジブ（傾斜約51度）を上ったところ、高さ約11m付近のクレーンジブから墜落した。	30106	1	1～9
2009	6	8 ～ 9	産業廃棄物中間処理施設内において、被災者と重機オペレーターが重機（グラップル）を使用してステンレス製タンク（重量約310kg）をつり上げ、コンテナボックスに投入する作業を行っていた。その際、被災者がつり上げられたタンクの位置を調整していたところ、重機の	150102	4	10～ 29

			フックに玉掛けしていたワイヤロープが外れ、落下したタンクにはさまれた。			
2009	12	14 ～ 15	揚重作業の現場に向かうため、市道と現場を結ぶスロープ状の私道に乗り入れたところ、スロープの路肩が崩壊して移動式クレーンとともに被災者が転落した。	80409	1	10～ 29
2009	4	14 ～ 15	墓地の区画内リフォーム作業を被災者を含む作業員2人で実施していた。墓の周囲のコンクリート製外柵（重量約380kg）を小型移動式クレーン（つり上げ荷重1.7t）でつり上げたところ、小型移動式クレーンが転倒した。つり荷の付近にいた被災者は、倒れてきたジブを避けたときに付近の墓石に身体を強打した。	80209	5	1～9
2009	12	14 ～ 15	クレーン機能を備えたドラグ・ショベルで、鉄板（重量約1.5t）をダンプトラックの荷台へ積み込む作業中、つり上げた鉄板を荷台に降ろそうとしたところ、鉄板が荷台からはみ出していた。このため、鉄板の位置を調整しようとドラグ・ショベルを旋回させたところ、鉄板がダンプトラックのあおりに激突し、そのはずみでつりチェーンのフックから鉄板が外れ、玉掛けをした被災者に落下した。	30106	4	30～ 49
2009	3	8 ～ 9	移動式クレーン機能付ドラグ・ショベルの近くにいた被災者が、土のうをつり上げ旋回したドラグ・ショベルのカウンターウエイトとボックスカルバートの翼壁との間にはさまれた。なお、災害発生時、移動式クレーン機能付ドラグ・ショベルの切替えスイッチは「ショベル」側に入っていた。	30199	7	1～9
2009	11	9 ～ 10	被災者は、市内の電柱移設工事現場において、積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.83t）を用い、運搬してきた電柱（長さ15m、重量1.18t、数量5本）の荷降ろし作業中に、同トラックの荷台上において電柱1本を玉掛けしつり上げたところ、クレーンのワイヤーが破断し落下した荷が被災者に激突した。	40301	4	10～ 29
			被災者は、積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）により、ミニドラグ・ショベル（重量約1.2t）を河川に降ろすため、クレーンの横			

2009	8	7 ～ 8	に立ち、操作レバーで作業していたところ、クレーンが横転した。被災者は横転したクレーンに激突され、河川の周囲に設置されていた柵との間に体をはさまれた。単独作業であり、アウトリガーの張り出しはしていなかった。	30199	6	10～ 29
2009	2	15 ～ 16	川に架ける橋の新設工事において、仮橋上の300tクローラクレーンで、基礎杭施工用の定規として使用するH鋼材を載せたユニフロートをつり上げた。このユニフロートには被災者を含め3人が搭乗していた。川面で当該クレーンでつっていたユニフロートを180度回転させようとしたところ、ユニフロートに載せていたH鋼材と川面から出ていた既設のH鋼杭が接触し、ユニフロートに乗っていた被災者が川に墜落した。	30105	3	10～ 29
2008	9	8 ～ 9	小型移動式クレーンを使用してボード板等の建築資材を搬出しようとしたところ、当該クレーンの第二ブームが突然折れ曲がって倒れ、ブーム先端に取り付けられている籠がブーム下方の地上で角材の切断作業を行っていた被災者に激突した。籠はブーム先端にボルトで固定しているが、作業時は籠は使用せずに通常のつり作業が行われていた。	30201	6	1～9
2008	5	12 ～ 13	起重機船のシアース塗装工事を行うため、ジブ先端にゴンドラを取り付けた移動式クレーンを用いて塗装を行っていた。シアース桁上部から約10mの位置で作業をしていた時、塗料が不足したため、別の場所で塗装作業していた同僚にシアース桁上部に塗料を運ぶように指示した。ゴンドラがシアース桁上部約2m付近に近づいた時、移動式クレーンが前のめりに転倒して渠底に設置した足場にゴンドラが激突した。その衝撃で足場が渠底に落下して被災者2名が渠底に投げ出された。	40102	2	30～ 49
2008	9	9 ～ 10	谷川に堆積した土砂の撤去・運搬作業を行うため、車両積載形トラッククレーンの荷台に不整地運搬車（機体重量2.0t）を載せて現場に搬送した。その後、当該クレーン（つり上げ荷重2.9t）を使って不整地運搬車を作業場所に降ろす作業中、車両積載形トラッククレーンがクレーンを操作していた被災者側に倒れ、ガードレールとの間にはさまれて	30199	7	1～9

			死亡した。			
2008	7	13 ～ 14	被災者は、資材置場の敷地外にトラッククレーンを停車させて車外で作業を行っていたところ、無人の当該トラッククレーンが動き出した。停止させるためにトラッククレーンに乗り込もうとした時、車のドアが門柱などに接触して身体がはさまれて死亡した。	40301	7	30～ 49
2008	3	4 ～ 5	工事規制区域内にて警備業務をおこなっていたところ、後退してきた4t車車両積載形トラッククレーンにひかれて死亡した。	170201	6	10～ 29
2008	1	8 ～ 9	建築工事現場において、移動式クレーンの運転者（運送会社の作業員）が、荷台のあおり上に立って玉掛け作業をしていた。現場の二次下請の作業員が、同じ荷台で別の荷を玉掛けしてタワークレーンでつり上げ、地切り作業を行っていたとき、積荷の一部が崩れたので、その荷を避けようとした移動式クレーンの運転者があおりから地面に転落した。さらに、崩れた荷が転落した当該運転者に激突した。	40301	1	1～9
2008	11	10 ～ 11	ホイールローダーを使用した販売用木材のはい積み作業において、被災者はローダーにより木材を荷台から降ろす作業の合間を利用して、はいの木回し作業を行っていた。その際、被災者が、自らが木回しした後のはいに再度立ち入ったため、ローダー運転者が慌てて旋回を止めたが、木材がグラップルから滑り落ちて被災者に激突した。	80209	6	1～9
2008	1	15 ～ 16	道路上でクレーン機能付き車両系建設機械を用いて鉄板（重量1.6t）をつり上げて旋回したところ、同機械が転倒して川（深さ2.85m）に転落した。そのはずみで被災者が車外へ投げ出されて車体にはさまれ死亡した。	30199	1	1～9
2008	5	9 ～ 10	神社に設置された3本の鳥居のうち1本を撤去作業中、被災者は中央の鳥居の解体後、別の鳥居の近くに廃材を運び出す作業をしていた。別の作業員が廃材を車両積載形トラッククレーンに積むため、クレーンのブームを玉掛け位置まで伸ばした後、被災者の作業を手伝うためクレーンから離れたところ、ジブが伸びて鳥居の上部（笠木）にぶつか	30199	4	1～9



			り、笠木が鳥居の下で作業をしていた被災者に激突した。			
2008	11	17 ～ 18	つり上げ荷重2.9tの積載形トラッククレーンを使用して、その荷台にあった重量約2tのトラック（最大積載量2500kg）をつり上げて旋回しようとしたところ、トラッククレーンが被災者側に倒れてきて、隣にあった別の2tトラックとの間にはさまれた。	11209	6	10～ 29
2008	1	14 ～ 15	工場内で廃車（4tトラック）を移動式クレーンを用いてつり上げたところ、玉掛に使用していたワイヤロープが切断して廃車前方で揺れを押さえていた被災者にバランスを崩した廃車が激突した。	40409	6	1～9
2008	12	14 ～ 15	コンクリートミキサー車で現場に生コンクリートを運搬したところ、工場内で他社による車の移動があったため、移動する車両積載形トラッククレーン（以下「トラッククレーン」という。）の誘導を行い、その後、トラッククレーンの前方に移動したところ、位置を変えるため移動したトラッククレーンの荷台と建設中の豚舎の擁壁との間にはさまれて死亡した。	10901	7	10～ 29
2008	11	15 ～ 16	リフティングマグネットを装着したスクラップ仕様の移動式クレーンを運転してスクラップ荷のつり作業終了後、運転席から出て、運転席脇の高さ2.35mの昇降用ステップに足を掛けたところ、ステップ踏み面を踏み外して転落した。	80109	1	10～ 29
2008	8	13 ～ 14	オペレーター付25tの移動式クレーンを用いて3名と事業主で木の伐採作業を行っていた。作業は、クレーンの主巻で作業台をワイヤロープ4本でつり、チェーンソーにて伐採した3本の木を補巻でつる作業であった。ジブを起伏して伐採した木を移動させていた時、伐採した木が作業台にあたり、作業台が傾いたため作業台にいた作業者が8m下に転落した。	60209	1	1～9
2008	12	15 ～ 16	土木資材を建設現場で荷卸作業中、積載形トラッククレーンが左側に傾き、オペレーターがガードレールと当該移動式クレーンとの間にはさまれた。	80209	6	1～9

2008	1	14 ～ 15	<p>国道道路災害防除工事現場において、落石防止柵の撤去作業中に横倒しにした支柱（コンクリートの四角柱とH形鋼を組合せたもの、長さ7.33m、H形鋼の断面寸法25cm×25cm）を移動式クレーン仕様のドラグ・ショベルにより引きずって所定の場所まで移動させようとしたところ、被災者が支柱のH形鋼部と法面コンクリート壁にはさまれ死亡した。</p>	30108	7	1～9
2008	11	10 ～ 11	<p>被災者は、単独で積載形トラッククレーンを用い、コンクリート製電柱（970kg）を建柱作業現場に運搬し、数10mおきに一本ずつ荷卸ししていたが、6本目の電柱を作業現場の道路の路肩に荷卸しし、玉掛していたワイヤロープの目止めを解き、ラジコン操作によってフックを巻き上げて、ワイヤロープを電柱の下から引き抜いた際に、電柱が道路脇の用水路に向かって転がり出して、被災者に激突した。</p>	40301	6	10～ 29
2008	9	14 ～ 15	<p>道路維持業務において、幅員7.0mの道路で積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）を路肩に停め、道路標識の基礎ブロック（重量約2t、2個）の荷降し作業中、1個目の荷をつり上げ旋回したところ同クレーンが路外に転倒した。この時、荷降し箇所付近にいた警備員が同クレーンが横転した際に荷台から落下した基礎ブロックの下敷きになり死亡した。</p>	170201	2	30～ 49
2007	12	8 ～ 9	<p>自社資材置き場からコンクリートブロック（1×1×1m）を運搬するために、積載形移動式クレーンでコンクリートブロックをつり上げて旋回したところ、積載形移動式クレーンが傾きだしたため、右側の操作位置から前方に逃げようとした際、傾いたアウトリガーと地面にあったコンクリートブロックの間にはさまれた。</p>	30106	7	10～ 29
2007	10	9 ～ 10	<p>ボックスカルバート設置工事で、200tトラッククレーンを用いて、組立前のL字型ボックスカルバート（11.9t）を立てた後、被災者は、はしごを使って、上方のつり金具（主巻）2つを外し、クレーンオペレータに巻上げの合図をした。クレーンオペレータが主巻、補巻の巻上げを行ったところ、下方のつり金具（補巻）2つを取</p>	30106	5	10～ 29

			り外していなかったため、当該ボックスカルバートが倒れ、被災者が下敷きとなった。			
2007	6	13 ～ 14	4 t 車上の型枠パネル（1枚10kgで100枚の束）2つの荷降ろし作業を行っていた。1つを降ろし2つ目を降ろそうとしたところ、トラッククレーンが横転し、被災者は最初に降ろしたパネルとトラッククレーンとの間にはさまれた。	30105	2	30～ 49
2007	2	9 ～ 10	車両積載形移動式クレーンを操作してつり荷（「スクリーン」と呼ばれる金属製の用具で、土砂の篩い分けに用いられるもの）を移動中に、車両積載形移動式クレーンが転倒し、被災者が車両の下敷きとなった。	40302	2	1～9
2007	10	16 ～ 17	墓石設置工事において、作業で出た土を運ぶため、トラッククレーンを道路斜面に設置し使用していた。被災者は通行するバイクを通すために、トラッククレーンを移動させようとしてアウトリガーを上げる操作をした時、当該トラッククレーンが斜面を下りはじめ、ガードレールに接触しながら、30m走って横転し、被災者はトラッククレーンの横へ投げ出された。	30309	7	1～9
2007	8	7 ～ 8	車両積載形移動式クレーン（つり上げ過重2.93t）で建設資材（コンクリート強化剤1袋15kg×60袋=900kg）の荷降ろし中、当該クレーンがバランスを崩して左側に転倒し、近くで作業していた被災者に当該クレーンのジブが激突した。	30201	2	10～ 29
2007	10	17 ～ 18	工事現場から帰社するため堤防道路を西進していた45tのラフタークレーンが左側に脱輪し、1回転しながら約5m下の公園へ転落し、運転していた被災者は転落の際運転席から車外へ投げ出された。	30302	17	100 ～ 299
2007	10	23 ～ 24	工事で使用する小型移動式クレーン（つり上げ能力2.93t、自重1.92t）をトラックから別の小型移動式クレーン（つり上げ能力4.9t）で降ろそうとしたところ、当該クレーン(別のクレーン)が転倒し、運転席から転落した運転手（被災者）が下敷きになった。	30301	2	10～ 29
			車両積載形トラッククレーンを用いて、縦1.5m、横3.1m、厚			

2007	9	13 ～ 14	さ2 c m、重量約8 0 0 k gの鋼板を一本づりでつり上げ、トラックの荷台に積み込む作業中、鋼板長辺中央部の穴にフックを掛けて運搬していたところ、鋼板がフックから外れて落下し、当該鋼板の下敷きとなった。	11301	4	30～ 49
2007	9	11 ～ 12	小型船舶の補修・塗装作業用足場を設置するため、クローラクレーン（つり上げ能力2 0 t）を用いて、約4 mの単管1 9本（約2 0 0 k g）をつり上げて移動させたところ、同クレーンの起伏ワイヤーが破断してブームが落下し、被災者に激突した。	11501	6	1～9
2007	1	10 ～ 11	高速道路工事において、2 5 tラフタークレーンのオペレーターである被災者は、つり降ろす予定であったドラグ・ショベルが修理中であつたために高速道路橋上にクレーンを停車させて待機していた。被災者は、待機時間中にクレーンの車体上に昇り、補助ジブのシーブに油をさす作業をしていたところ、バランスを崩し、クレーンから落下し、道路橋の欄干を乗り越え、8 m下の地面に墜落した。	30106	1	50～ 99
2007	8	8 ～ 9	つり上げ荷重4. 9 tの移動式クレーンを用いて材木2 3本（約8 0 0 k g）を移動中、過負荷警報ブザーが鳴ってブームが停止した。運転士はスイッチを切り替えて無効化し、ブームを下げたところ、クレーンが傾き、足場等に当たって止まった。材木を降ろそうと巻き下げて土場に置いた数分後に、無負荷状態となったクレーンが元に戻つて材木が動き出し、被災者に激突した。	30209	6	1～9
2007	6	11 ～ 12	車両積載形トラッククレーン（4 t）の積荷を別の車両積載形トラッククレーン（1 0 t）に積み替える作業が終了したので、立てていた4 tクレーン車のブームを戻そうとしてドアを開け運転席に座らず地面に立ったままエンジンをかけた時、P T Oが走行側に入っており、かつ4 tクレーン車のギアが入っていたため前方に動き出し側方に停車していた1 0 tクレーン車のアウトリガーにドアが衝突し、ドアと車体にはさまれた。	30105	7	1～9
			工場駐車場の敷き均し工事が終了し、工場で不要となった暖房用ヒー			

2007	6	13 ～ 14	ター（高さ約3m、縦1.16m、横1.66m、重さ1.15t）を引き取ることになり、2.9tつり車両積載形トラッククレーンでヒーター本体に玉掛ワイヤロープを一重に巻き付けてつり上げ、トラックの荷台に置こうとクレーンを横引きした時に、ヒーターのバランスが崩れ、近くにいた被災者に激突した。	30209	6	1～9
2007	2	8 ～ 9	被災者は工場内にてフォークリフトのカウンターウエイト下にはさまっていたスクラップ材（スチール製ホイール）を、ハンマーで取り出そうとしていた。そこへ取引業者のトラックが後退してきたため、被災者にトラックの荷台後部が激突し、フォークリフトのカウンターウエイトとの間にはさまれた。	11209	6	10～ 29
2007	4	9 ～ 10	車両積載形トラッククレーン（4.9t積、2.93tつり）で木造住宅建築工事現場へ材木を運び、同クレーンで荷台の中ほどに積んできた約2mの材木の束をつり上げたところ、馬かけ状態（荷を運転席後部の枠にかけて積んだ状態）の木材（長さ7.9m、重量約0.2t）に当たりその木材がアウトリガー（高さ1.1m）上でクレーンを操作中の被災者側へ落下した。被災者はそれを避けようとしてアウトリガー上から墜落した。	40301	1	30～ 49
2007	8	16 ～ 17	採掘ガスパイプライン敷設工事において、敷鉄板（1.53m×6.13m×t20重さ1.6t）をクレーン機能付きドラグ・ショベル（2.9t）でつり上げ4tトラックに積み込む作業中、トラック荷台上で敷き鉄板を横に倒した際、敷き鉄板が横滑りして、当該クレーンとトラック荷台との間で荷ぶれを防ぐため支えていた被災者が横滑りしてきた敷き鉄板とクローラの間にはさまれた。	30199	7	10～ 29
2007	6	7 ～ 8	漁港岸壁で定置網を交換するため、2.93tつり車両積載形油圧式トラッククレーンで網捌き機（網を巻き上げる滑車状の装置約0.5t）をつり上げ、その滑車部分に定置網（推定0.7t）を通して船に積み込む作業中、過荷重となり当該クレーンが転倒し、船上で作業を行っていた被災者がつり荷である網捌き機の下敷きになった。	70201	2	10～ 29

2007	10	8 ～ 9	つり上げ荷重2.93tの車両積載形トラッククレーンを用いて、大型乗用車を荷台から地上に降ろす作業中、被災者は荷台上で大型乗用車に玉掛けをした後、地上に降り、当該トラッククレーンの操作レバーを操作して、当該大型乗用車をつり上げた後、右旋回をしていたところ、当該トラッククレーンが転倒し、被災者がトラッククレーンの下敷きになった。	80202	6	1～9
2007	8	8 ～ 9	基礎型枠の資材を小型移動式クレーンで積み下ろす準備をしていた被災者が、荷台後部より墜落した。	30201	1	10～ 29
2007	12	9 ～ 10	雨水幹線築造工事（開削）現場で長さ10m、重量1.5tの切梁を撤去する作業を行っていた。被災者は底にいて介錯ロープを持ち移動式クレーンでつられた切梁を誘導していたが、切梁が揺れて被災者に激突、鋼矢板との間にはさまれた。	30110	6	30～ 49
2007	12	8 ～ 9	建売住宅建築現場において運送会社の運転手がプレカット材の束（重量約1.2t）を車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）でつり上げ、荷降ろし場所に旋回しジブを伸ばしたところ移動式クレーンが傾き荷台の別のプレカット材の束など（重量約1.3t）が落下し、つり荷の触れを抑えていた被災者を直撃した。	40301	4	30～ 49
2007	3	9 ～ 10	電柱設置関連工事において、電柱設置の支障となる雑木林の伐採作業後、枝切り木の束を小型移動式クレーン積載形トラックに積み込むため、被災者が荷台の荷の上（地上高2m）で、クレーンを右手で無線操作し、左手でつり荷を押さえようとしたところ、バランスを崩して地上高2.86mの挿し枠上部（コンパネ）を越えて、仰向けの状態で道路へ墜落した。	30301	1	1～9
2006	12	11 ～ 12	被災者は一人で、2.9トン車両積載形トラッククレーンを用いて、無線操作によりテトラポット製造用型枠（幅2.16メートル、高さ2.08メートル、重量0.6トン）を荷台に積み込む作業中、荷台から降りようとしたところ、型枠が倒れ、あおり受けの中柱と型枠と	40301	7	10～ 29

			の間にはさまれた。			
2006	12	14 ～ 15	移動式クレーンでトラックに鉄骨を積み終えたところ、荷台右前方の鉄骨が荷台からはみ出していた為、移動式クレーンを使用し微調整していたところ、荷台の左前方に積んであった鉄骨が落下し、荷台の左前方にいた被災者が鉄骨の下敷となった。	170101	4	1～9
2006	12	13 ～ 14	被災者は、トラックの荷台に積んでいた発電機を架台上に陸揚げされている船に積み込むため、架台横のスロープ上にトラックを止め、つり上げ荷重25トンの移動式クレーン車を待っていたところ、その移動式クレーン車が、架台に通じるスロープを移動中に制動装置が作動しなかったため、スロープ上の被災者を轢いた。	11401	7	50～ 99
2006	12	13 ～ 14	採石プラント解体工事現場において、解体した機械（ロッドミル）の架台（縦6740mm、横3660mm、高さ1010mm）を2段に積み、その上に鉄製とい（長さ7030mm、幅395mm、高さ450mm、重量約700kg）を乗せ、ホイールクレーンにて架台ごとまとめて吊りあげようとしたところ、固定されていなかったといが落下し被災者に激突した。	30302	4	10～ 29
2006	12	15 ～ 16	杭の溶接作業を行っていたAと、その溶接部スラグの除去作業を行っていたBから、約10Mの場所でクレーン作業を行っていたクレーン運転手が、H鋼（長さ：約11M、重さ約790kg）をワイヤにかかけ吊り上げ、約50cmの高さから、H鋼に付着した泥を落とそうと、急激に落下させたところ、そのH鋼が倒れBに激突し死亡。Aはワイヤに激突し、負傷を負った。	30199	5	10～ 29
2006	11	5 ～ 6	移動式クレーンを運転し、イベント設営のため、現場へ向かう途中、バイパス下りのスロープ部でガードレールに激突し、助手席に乗車していた被災者が、約8メートル下の崖へ墜落した。	30209	17	1～9
2006	10	8 ～	建設工事現場において、吊り上げ荷重2.93tの車両積載形トラッククレーンで材料（合板49枚、約600キロ）を荷下ろし作業中に、吊っていた荷が足場の建地上部（約7m）に触れたので回避しよ	40301	4	10～

		9	うと操作したところ、玉掛けしていた荷が崩れ落下し、荷台上にいた被災者に落下した。			29
2006	11	14 ～ 15	トラック積載型クレーン（つり上げ荷重2.9トン）の荷台から原木を下ろすため、車外運転席（進行方向右）後方の操作レバーを操作して荷台の原木を吊り上げ、続いてブームをトラック後方から手前側（進行方向右側）に巡回させたところ、トラックが傾き、トラックの運転席と傍らの原木の山との間に挟まれてた。	30202	2	10～ 29
2006	10	8 ～ 9	型枠材のアルミ製ゲージを25tラフテレーンクレーンの補巻を使用してつり上げ、地上高1.5mの位置で巡回移動中、2点吊りを行っていた玉掛けワイヤロープから、ゲージが抜け落下し、一方が地面に接触し、その反動で被災者側に倒れてきて挟まれ死亡した。吊っていたゲージは、2束（17本と71本がそれぞれ結束されている計91本）、総重量約900kgであった。	30209	4	10～ 29
2006	10	14 ～ 15	建物外溝改修工事を行っていたところ、傾斜角8度の道路に停車していた車両積載形トラックが動き出し、被災者を巻き込み、途中ブロック塀や電柱に激突しながら70メートル下の民家に激突した。	30199	7	10～ 29
2006	9	14 ～ 15	コンクリート製品製造工場の製品置場で、車両積載形トラッククレーンにより、L字型コンクリート製品（高さ1.75m、底辺2m、重さ約1.7トン）を荷台に積み込み、荷外し後、クレーンのブームを上げたところ、荷台上でクレーンをリモコン操作していた被災者に当該製品が倒れ掛かり、積載済の製品との間に挟まれた。	40301	6	10～ 29
2006	9	15 ～ 16	貸与を受けていた小型移動式クレーン（重量1.2t）を貸与者に返却するため、貨物自動車に積載して重機置場へ被災者1人で搬送し、貨物自動車から道板を使用して地上に降ろしていたところ、当該移動式クレーンがバランスを崩し転倒し、被災者はその下敷きになった。	30301	1	10～ 29
2006	7	15	事業場の駐車場で4t車両積載形トラッククレーンにより解体工食用アタッチメント（大型ブレーカー）を吊り降ろしていた際、大型ブ	30201	4	10～ 29



		16	レーカーが吊りフックから外れて、被災者の上に落下した。			
2006	8	16 ～ 17	鋼管杭3本を溶接して打設する作業中、上杭をクレーンで据え付けたところ、上杭が完全な鉛直とならないため、修正しようと傾いた側を溶接で仮止め（点付け溶接）し、玉掛者の合図により反対方向へクレーンを旋回させ調整しようとしたところ、上杭が外れ別の杭方向へ振れたため、溶接作業を行っていた被災者に当り、被災者が鋼管と鋼管に挟まれた。	30105	6	10～ 29
2006	8	13 ～ 14	現場駐車場内において、作業者が車両積載型トラッククレーンをバックで方向転換した際、後ろにいた被災者に激突した。	30209	6	1～9
2006	6	17 ～ 18	足場上に置かれている鉄筋が少なくなったので、被災者がクローラークレーン（2.9t）で荷揚げすべく搭乗し、他3名が足場上で鉄筋の組立作業を行っていたところ、側壁に何かぶつかる音がして、足場上から被災者に声を掛けたが反応がなく下に降りたところ、被災者が中間杭とクローラークレーンの運転席との間に挟まれていた。	30102	7	1～9
2006	7	8 ～ 9	マンション新築工事現場において、アース・ドリル（つり上げ荷重35tのクローラークレーン）で発電機をつり上げて左旋回したところ、隣に停めていたドラグ・ショベルの運転席にいた被災者が、アース・ドリル旋回体右後部と搭乗するドラグ・ショベル運転席左前部にはさまれた。	30201	7	1～9
2006	7	14 ～ 15	高炉の改修工事にて、関連設備（鉍石中継室）の新築建屋から隣接する建屋への渡りデッキを取り付ける作業中、移動式クレーン（25t）でデッキ枠に縞鋼板を2枚のせた状態の荷をつり上げ、チェーンブロックを使用して位置決めをしていたところ、デッキの上ののせていた縞鋼板1枚（2185×1290×4.5：重さ約101kg）が約11m落下し、地上にいた被災者にあたった。	30209	4	10～ 29
			22KV電線路新設に伴う接近樹木伐採工事において、すでに倒木してあった樹木の搬出作業をクレーンを使用して実施していた。枝のみ			

2006	6	11 ～ 12	を吊り上げようと荷作り玉掛けし、吊り上げたところ幹から切り離されていない枝も玉掛けしていたため、幹の片側が吊り上げられ被災者の方へ旋回した。直後に枝が根本付近で折れ、幹の部分が被災者に倒れかかり、被災した。	30309	4	1～9
2006	6	7 ～ 8	民家の建前工事現場に向かうため、移動式クレーンを運転し交差点を直進していたところ、左から来た乗用車と出会い頭に衝突、横転した。	80409	17	10～ 29
2006	3	11 ～ 12	移動式クレーン（つり上げ荷重16トン）を使用して、番線で結束した単管（直径48ミリメートル、長さ4.5メートル）100本（約1.2トン）を、つり上げ所定の位置に降ろそうとしていたところ、地上から約7メートルの高さにあったつり荷が突然落下し、ちょうどつり荷の下をくぐろうとした被災者がつり荷の下敷きとなった。	40301	4	30～ 49
2006	4	8 ～ 9	加工工場で組み立てた金属製型枠4組を4.9トントラッククレーンで擁壁構築現場に据え付ける作業中、コンクリート擁壁の金属製型枠4組のうち2組目を据え付けた直後、運転者がトラッククレーンのワイヤロープを巻き上げたときに吊り具のフックが金属製型枠にかかったために当該型枠が倒壊、下方に待機していた被災者に激突した。	11509	4	30～ 49
2006	3	11 ～ 12	道路占有区画をした範囲内において、道路法面にある枯れ木の伐採、剪定作業を、被災者を含む8名で実施していた際、伐採した幹を車両積載型トラッククレーン（2.9t）の荷台に積載するため、被災者が後方で誘導しながら、当該トラックを後進させていたところ、被災者が荷台に接触し、路面に倒れたところを後進するトラックの左後輪に轢かれた。	30199	7	10～ 29
2006	3	13 ～ 14	資材置き場において、25トン移動式クレーンを用いてログハウス建築資材（5.8t以、長さ10m、横1m、たて2.7m）を移動中、過負荷防止装置を解除し作業していたため、当該移動式クレーンが前のめりになり、つり荷が落下、その下で作業していた被災者が下	30309	4	1～9

			敷きになった。			
2006	3	15 ～ 16	墓石の調整作業が終了し、使用していたクレーンをトラックの荷台に載せる準備のため、後ろ向きに移動させていたところ、斜面（5～12度）であったため、止まらず、道路沿いに停車させておいたトラックの「アオリ」部分と操作ハンドルの上に挟まれる形となり、死亡した。	80209	6	1～9
2006	3	11 ～ 12	被災者は、小型移動式クレーン（積載型トラッククレーン、吊り上げ荷重2.33トン）を操作し、工場から現場に搬送してきた改築用の木材（約0.55トン）を、ジブを6.4メートル（最大）に伸ばして右回転させ、同トラックの荷台から仮設用足場上へと移動させる途中、ジブがトラックの前方領域に至った時点で小型移動式クレーンの後部が浮き上がった後に横転し、トラックの荷台と地面との間に挟まれた。	10401	2	30～ 49
2005	8	10 ～ 11	伐採した松を、車両積載形トラッククレーンを使用し、荷台に下ろしていたところ、上方にある配電線（電話津14,000V）からジブ先端に放電し、トラッククレーン横の地上でクレーンを運転していた被災者が感電した。	60209	13	1～9
2005	10	16 ～ 17	車両積載形トラッククレーンを後退させたところ、起こしていたジブが建屋の出入り口のシャッターの収納箱に当たったため、ジブの上に乗って、破損状況の確認中、高さ3mのジブの上からコンクリート床に墜落した。	30209	1	1～9
2005	7	10 ～ 11	貨物自動車を傾斜のある場所に停車させ、ギヤを中立にし、サイドブレーキを掛けずに運転席を離れたため車両が傾斜を下りだし、これに気付いた被災者が車両前方にまわり込み止めようとしたが止めきれず、他の貨物自動車に衝突し、被災者が両車両の間に挟まれた。	80109	6	1～9
2005	6	9 ～ 10	移動式クレーンを使用して鋼板（1枚の重さ600kg）8枚をつり上げて回転したところ、被災者らが支えるまくら木に鋼板の側面が当たり、まくら木の一部が被災者に激突した。	50202	6	10～ 29

2005	10	8 ～ 9	工事現場で使用する沈殿槽（縦1.2m、横3.6m、深さ1.2m）を会社資材置き場から運搬するため、車両積載形トラッククレーン（吊り上げ荷重2.9トン）でつり上げ中、当該クレーン車両が横転し、下敷きとなった。	30107	7	1～9
2005	3	9 ～ 10	岸壁に接岸した貨物船内から、コンテナ（重さ24トン）を移動式クレーン（つり上げ荷重80トン）でつり上げ作業中、突然、ジブが倒れ、つり上げていたコンテナが船内で作業していた被災者に落下した。	50202	4	30～ 49
2005	7	15 ～ 16	解体した型枠材（1本8kg）100本を車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9トン）で荷台に積込み中、荷崩れを起こし、型枠材とともに地上に墜落した。	40301	5	1～9
2005	12	15 ～ 16	つり上げ荷重230トンのクローラクレーンの組立て・試運転を行っていたところ、移動式クレーンがカウンターウェイト側に横転し、運転席横の歩廊で組立ての指導を行っていた被災者が12m下の地面に墜落した。	30105	1	50～ 99
2005	11	7 ～ 8	トラックの荷台にあった碎石の入ったシートモッコ（500kg）を降ろすため、トラッククレーン（つり上げ荷重2.8トン）の左側方で操作をしていたところ、トラッククレーンが横転し、近くにあった木とトラッククレーン助手席のドアとの間に挟まれた。	30199	2	1～9
2005	2	9 ～ 10	トラックから成形機（重さ1.5トン）を降ろすため、トラックに横付けした車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9トン）を操作して、玉掛後に巻き上げ・左旋回している時、当該トラッククレーンが横転し、転倒したトラッククレーンとトラックの荷台との間に挟まれた。	11301	2	10～ 29
2005	11	14 ～ 15	車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9トン）を用いて荷台からヒューム管（重さ2トン）を荷降ろし作業中、クレーンが横転し、クレーン操作を行っていた被災者がクレーン車体とガードレールとの間に挟まれた。	30106	2	10～ 29

2005	8	14 ～ 15	小型クローラクレーンで勾配が26度の坂道を登坂中、20cmの段差を乗り越えようとしたところクレーン前部が持ち上がった状態になり、登りきれずにクレーンが横転し、運転していた被災者がクレーン後部に挟まれた。	30309	1	1～9
2005	1	13 ～ 14	活性炭の実験装置（重さ1.6トン）を車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9トン）により運搬するため、活性炭の実験装置をつり上げ、当該クレーン車両の荷台に積み込むために右旋回させたところ、当該クレーン車両が右側に横転し、その下敷きとなった。	40301	6	100 ～ 299
2005	9	15 ～ 16	小型移動式クレーンで、運搬してきたプラント用発電機を地上に降ろそうと当該クレーンを操作し旋回したところ、当該クレーンが被災者側に倒れ、再生コンクリート山との間に挟まれた。	10901	7	10～ 29
2005	5	13 ～ 14	自社車庫より車両積載形トラッククレーンを出そうとエンジンを始動させたところ当該車両が動き出し、運転席のドアが車庫の柱に当たり、ドアと車体との間に挟まれた。	80409	7	1～9
2005	11	10 ～ 11	ごみ処理再生工場の新築工事現場において、移動式クレーンでつられてきた建築資材を屋根の上を下ろす作業を行っていたところ、同クレーンのアウトリガーの敷板が割れ滑ったことから、つり荷とつり具が急に屋根に着地してバウンドし、当該つり具が屋根の上にいる被災者に当たり、屋根の上から地上に墜落した。	30209	6	1～9
2005	6	15 ～ 16	車両積載形トラッククレーンに鋼管2本を積みワイヤロープで緊結した後、荷台を歩いて運転席に向かう途中、体のバランスを崩して1m下のコンクリート床に墜落した。	40301	1	50～ 99
2005	8	17 ～ 18	山道上で小型移動式クレーン移動させていたところ、小型移動式クレーンがスリップし、小型移動式クレーンの脇で補助していた被災者に激突した。	30209	1	1～9
2005	4	17 ～	2階建て木造家屋建築現場において、2階床部に仮置きしていた断熱パネル板（重さ60kg）を外壁に取り付けるため、移動式クレーンを用い	30202	4	10～

		18	クランプでつって移動させている際、クランプが外れ荷が落下し、その下で断熱パネル板の取付け作業中の被災者に激突した。			29
2005	5	13 ～ 14	車両積載形トラッククレーンを使用して、荷台から敷鉄板をつってジブを左旋回させていたところ、クレーンが傾き横転し、運転していた被災者が運転席の下敷きとなった。	30199	2	1～9
2005	10	13 ～ 14	鉄骨の解体作業において、小型移動式クレーンのフックにつりクランプ取付け用ワイヤを玉掛けし、H鋼の中心付近に1点つりをしながら溶断作業中、突然フックからつりワイヤーが外れ鉄骨が下にいた被災者に当たった。	30209	4	1～9
2005	7	10 ～ 11	車両積載形トラッククレーン（つり上げ過重2.9トン）で建設資材（重さ1.8トン）の荷降ろし中、当該クレーンがバランスを崩し左側に横転し、当該クレーンを操作していた被災者が当該クレーンのタイヤと路面との間に挟まれた。	40301	7	1～9
2005	6	15 ～ 16	資材置き場でコンクリートをつり上げた際、車両積載形トラッククレーンが横転した。	30199	7	1～9
2005	6	0 ～ 1	墓石を移動するのに使用する移動式クレーンで、コンクリート階段脇のスロープを自走して上っていったところ、途中で移動式クレーンが後退し、機体後部で操作していた被災者が下敷きとなった。	10909	6	1～9
2005	11	16 ～ 17	護岸工事に用いる地固めブロックの玉掛け作業中に、クレーンオペレーターが後方を確認しようとして後ろを振り向いたところ、誤って走行ペダルを踏んでしまったため、クレーンが後退し、ブロックが倒れて玉掛け作業中の被災者が挟まれた。	30107	6	30～ 49
2005	1	0 ～ 1	現場で使用する鉄筋を自社工場で加工し、小型移動式クレーンにより、大型トラックに積み込む際、小型移動式クレーンが傾き、被災者に激突した。	11209	6	10～ 29
		13	トラック荷台上でL型水路を車両積載形トラッククレーンで積み込む作			10～

2005	3	～	業を行っていた被災者が、トラック後部のアオリと倒れたL型水路との間に挟まれた。	40301	5	29
2004	6	15～	岸壁に係留している浮きクレーンの補巻のワイヤロープを交換する作業中、立て置きしていた主巻のフックブロック（重量約1.3 t）が倒れ、下敷きになった。	30199	7	10～ 29
2004	5	10～	電柱建替工事現場において、移動式クレーン（2.9 t）を使用して、既設の電柱の支柱（重量900kg、長さ12m）を撤去する作業中、当該移動式クレーンにて支柱をつり上げて移動させていたところ、当該移動式クレーンが転倒したことにより、補助作業に従事していた被災者が転倒した移動式クレーンのジブと支柱との間に挟まれた。	30301	6	10～ 29
2004	6	9～	木材をトラッククレーンの荷台から降ろすため、荷の最上部に昇り、荷の落下防止の鎖を外した後、荷からトラックの荷台後部に設置されている操作台へ乗り移ろうとしたとき、足を踏み外し約3m下へ墜落した。	40301	1	1～9
2004	11	17～	車両積載形トラッククレーンを使用し、荷（重さ約1200kgの鋼製の架台）のつり上げ作業を行っていたところ、当該クレーンが転倒し、操作を行っていた被災者がこれに巻き込まれた。	10901	7	10～ 29
2004	3	11～	車両積載形トラッククレーンを使用して、公道から1段下がった自社資材置き場にプレハブの現場用事務所を荷台からつり下ろしていたとき、トラッククレーンが傾き、下ろし側に立って操作していた被災者が機体とガードレールの間で挟まれた。	30106	7	10～ 29
2004	11	6～	トラック（最大積載荷重7 t）後部に積載されているグラップルローダを用いて、丸太（長さ4m、径30cm）を搬入していたとき、トラックが横転したため、被災者が運転席から投げ出され死亡した。	40301	2	10～ 29
2004	5	15～	雨水幹線築造付帯工事現場において、移動式クレーンによりスリングベルト2本つりで玉掛けした金属製扉を雨水管ピット部（深さ約2m）よりつり出す作業をしていた被災者が当該つり荷とピット壁面の間に挟まれた。	11209	6	1～9

2004	3	15 ～ 16	セルラブロック製作工事においてつり上げ荷重40 tの移動式クレーンを用いて鋼製型枠をつり上げていたところ、当該クレーンが横転し、同鋼製型枠が完成したケーソン上（高さ4m）で作業をしていた被災者に激突した。	30107	6	10～ 29
2004	2	9 ～ 10	道路上から高さにして約4.6m下の擁壁の裏込めした場所に、つり上げ荷重約3tの車両積載形トラッククレーンで荷台からヘッドガードを取り外したドラグ・ショベルを下ろそうとしたところ、クレーンが斜面側に横転し、逃げ遅れた被災者がクレーンの下敷きになった。	30108	6	1～9
2004	8	16 ～ 17	空倉庫の重量約1.4tの天井走行式ホイストクレーン（つり上げ荷重2.8t）のガーダをホイールクレーンの吊上げ荷重1.4t補巻フックで吊上げ、撤去する作業中、ガーダが約3.5mの高さから地上に落下し、地上にいた被災者に当たった。	40301	4	30～ 49
2004	3	11 ～ 12	カムシャフト研掃装置新設工事現場にて、バケットエレベーターのケーシングを組み付けるため10t移動式クレーンとチェーンブロックを用いて当該ケーシングをつり上げていたところ、つり荷が横転、落下し、玉掛けを修正しようとしていた被災者が当該吊荷と床の間に挟まれた。	30302	4	1～9
2004	3	7 ～ 8	25tホイールクレーンを運転中、通行していた道路路肩が崩れ、約4.5m下の川に転落、溺死した。	170209	17	1～9
2004	12	10 ～ 11	事業主がトラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）を操作し、林内作業車（重量1.9t）を荷台から地面へ下ろしていたところ、被災者がつり荷の林内作業車と塀との間に挟まれた。	10401	7	1～9
2004	8	15 ～ 16	つり上げ荷重2.93tの移動式クレーンを用いてアウトリガー最小張り出しにて、修理依頼された重量約1.6tのトラクター・ショベルをつり上げてトラックに積載しようとしたところ過負荷となり、移動式クレーンが転倒し、移動式クレーンの運転を行っていた被災者が下敷きとなり	11702	6	10～ 29



			死亡した。			
2004	9	0 ～ 1	地すべり防止工事において、工事完了後、現場からクローラクレーンを搬出するため幅約3.5mの町道上を走行中、路肩から約18m下の駐車場に車両とともに転落し、車外に投げ出されて車両の下敷きになった。	30199	17	1～9
2004	9	10 ～ 11	堤防管理用道路が陥没し、その養生のために、車両積載形トラッククレーンで鉄板のつり上げ作業中、当該クレーンが横転し、運転していた被災者がクレーンもろとも河原へ転落した。	30107	2	10～ 29
2004	9	17 ～ 18	看板の補修作業終了後、帰社するため車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9 t）で200mほど走行したところ、クレーンのジブが伸びたままの状態であったため、ジブが電線に引っかかり横転した。	90209	17	1～9
2004	6	9 ～ 10	工事現場において、車両積載形トラッククレーンで現場内で不要となった建築資材を2階バルコニーから地上へ荷降したところ、つり上げた荷資材（床用下地ボード、重量約315kg）が荷崩れを起こし地上へ落下し、トラッククレーンの近くにいた被災者に激突した。	30199	4	10～ 29
2004	12	8 ～ 9	車両積載形トラッククレーンの荷台から鉄筋の束を下ろすため移動式クレーン運転者が荷台から無線操作をし鉄筋をつり上げブームを旋回させたところ、定格荷重を超えていたため車両積載形トラッククレーンが転倒し、玉外しを行うため現場内にいた被災者にブームの先端が激突、倒れたブームの下敷きになった。	30201	6	10～ 29
2004	6	8 ～ 9	墓地において、墓石の撤去作業を行うため、小型移動式クレーンを作業場所へ移動させていたところ、段差があったため、道板（アルミ合金製）を敷き、その上を走行中、当該小型移動式クレーンが転倒し、操作していた被災者が下敷きになった。	10909	6	1～9
2004	2	13 ～	会社倉庫前で車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.9t）を用いて、井戸掘削用の鉄製刃先付金棒（質量2.52t）を地上に下ろす作業中、当該クレーンが転倒し、荷台上にいた被災者が荷とともに地上に	30199	6	10～ 29

		14	投げ出され、つり荷と激突した。			
2004	7	8 ～ 9	排水路工事現場において、車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93 t）を用いて荷台に積んでいた鉄板1枚（重さ800kg）を同クレーンで積み降し作業中、車体が倒れ、クレーンをリモコン操作していた被災者が車体とガードレールの間に挟まれた。	30199	7	10～ 29
2004	12	8 ～ 9	ビル新築工事現場において鉄骨柱搬入作業中、つり荷の鉄骨柱（約14t）をつり上げ荷重50tクローラクレーンを用いてトレーラーからつり上げ、地上3m程の位置で左旋回させ所定の位置まで移動させていたところ、つり荷がクローラクレーンから約18mの場所で別の作業を行っていた被災者に激突した。	30201	6	10～ 29
2004	12	10 ～ 11	2階木造家屋建築工事の骨組み作業で、被災者は2階床張りした箇所ですと柱と梁等とに専用金具を打ち込んでいるとき、移動式クレーンで2階から組み上げるための柱材の束をつり上げて合図を待っていたところ、何らかの原因で柱材が束ごと飛来落下し、被災者に当たった。	30202	4	1～9
2004	11	9 ～ 10	移動式クレーンのジブ先端に取り付けられた専用の搭乗設備（搬器）に乗り込み、地上25m付近に設置されているベルトコンベア架台の点検作業（H鋼の肉厚測定）を行っていたが、3カ所目の点検を終えたところで、H鋼と搬器との間に挟まれた。	11001	7	1～9
2004	9	10 ～ 11	建築材料（重量600kg）を移動式クレーンでつり上げ移動中、つり荷が足場に接触、落下し、つり荷の下で準備作業を行っていた被災者に激突した。	40301	4	10～ 29
2004	10	6 ～ 7	鉄道車両基地内のレール交換工事で、取り外したレールを車両積載型トラッククレーンにより同トラックに積み込む作業中、クレーンのジブが架空電線（電圧2万V）に触れ、玉掛作業をしていた被災者らが感電した。	30104	13	10～ 29
2004	3	15	沼の浄化排水路工事において、クレーン機能付油圧ショベルのバケットとクレーン付きトラックのクレーン支柱との間に挟まれた。	30107	6	1～9

		16				
2004	4	14 ～ 15	移動式クレーンで、船を台座から海に移動させるための滑車をつり上げようと、ジブを約17m伸ばしたところ、移動式クレーンが転倒し、フックが被災者に激突した。	11501	6	10～ 29
2004	11	13 ～ 14	防波堤建設工事現場において消波ブロックをクレーン船で海中に設置作業中、設置済みの消波ブロック側面と次に設置予定のためクレーンにつられて海中で一時停止させた状態（着床していない）の消波ブロック側面との間に挟まれた。	30111	6	10～ 29
2004	2	8 ～ 9	法面（のりめん）工事において、フリーフレーム用アンカー作業中、クローラクレーン（つり上げ荷重80 t）で作業架台を約20mつり上げ、作業者の3名は法面（のりめん）上部から架台に移るため親綱にロリップを取り付け順次作業架台に移動し、最後の作業者が架台に移ったとき、クローラクレーンが転倒し作業架台とともに作業者が墜落した。	30108	1	10～ 29
2004	2	8 ～ 9	法面（のりめん）工事において、フリーフレーム用アンカー作業中、クローラクレーン（つり上げ荷重80 t）で作業架台を約20mつり上げ、作業者の3名は法面（のりめん）上部から架台に移るため親綱にロリップを取り付け順次作業架台に移動し、最後の作業者が架台に移ったとき、クローラクレーンが転倒し作業架台とともに作業者が墜落した。	30108	1	10～ 29
2003	12	16 ～ 17	H鋼の束を移動式クレーン（つり上げ荷重35t）でトレーラに積み込む作業で、3段に積まれたH鋼の束から注文のH鋼の束を取り出すためクレーンのフックに掛かっているつり具からワイヤロープの一端を外してフックを巻き上げたときに、つり具のフックが3段目のH鋼（長さ14.7m、幅30cm、重さ2.8t）に引っかかったためH鋼が倒れ、玉外しをしていた者の頸部に落下した。	50202	5	10～ 29
		11	浄水場築造工事において、取付道路工事に使用する仮設資材（養生用鋼製金網）を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）の荷台か			

2003	12	～	ら荷卸しするため、浄水場内の坂道に積載形トラッククレーンを止めてアウトリガーを設置しているときに、クレーンが坂道下り方向に動き出しクレーンの後方で交通整理をしていた者に激突した。	170201	6	10～ 29
2003	12	～	軌道新設工事において、25tラフタークレーンで枕木を軌道上の台車に載せる作業中に、つり上げた荷が作業個所に隣接する信号リレー室に接触しそうになったので、誘導員がクレーンオペレーターにブームの起伏を指示したところ、つり荷が揺れてスリングベルトから抜け落ちて枕木の一方が誘導員に激突した。	30104	6	1～9
2003	11	23 ～ 24	工事受注に向けたデモンストレーションのため浮きクレーンなど4隻を回航し、作業完了後に浮きクレーン船内で4名が缶ビール等を飲みながら食事をして就寝したが、途中で起床した者が小用をたしに行きもどらないので探したところ海上に浮いていた。	30111	1	10～ 29
2003	11	17 ～ 18	移動式クレーンの荷台からフォークリフトを降ろすため、クレーンでフォークリフトをつり上げて旋回し地上に下げ始めたときに、車が横転したため車の運転席ドアと隣接して置いてあった別のフォークリフトの間にはさまれた。	80209	6	1～9
2003	10	9 ～ 10	雨水幹線のしゅんせつのため、車両積載型トラッククレーン（最大定格荷重2.6t）で運んできたドラグ・ショベル（機体質量約2t）を橋の上から川につり降ろす作業中に、定格荷重を超えたためクレーンが転倒し、クレーン運転士が橋の欄干とクレーンとの間にはさまれた。	80409	7	1～9
2003	9	～	テトラポットを作製のためのコンクリート打設作業で、コンクリート打設に使用したバケットを移動式クレーンでつり上げながら内部に付着したコンクリートをハンマーで打撃しながら除去していたときに、バケットを支えていた移動式クレーンのワイヤロープが緩んだためバケットが転倒して下敷きになった。	30111	6	30～ 49
2003	8	9 ～	積載形トラッククレーン(つり上げ能力2t)を坂に止め、石材135kgを積んでトラッククレーンに乗ろうとしたときにトラッククレーンが動き	80109	2	1～9

		10	出したので、トラッククレーンを止めようとハンドル操作を試みたが道路斜面で転倒し頭部を強打した。			
2003	7	16 ～ 17	リフティングマグネットをアタッチメントとして装着したドラグ・ショベルで、大型トラック荷台の金属スクラップを取ろうとしたときに、荷台内にいた作業員がマグネットに激突された。	11209	6	1～9
2003	7	11 ～ 12	推進工法による下水道工事において、直径2.6m、深さ6mの発進たて坑の中に移動式クレーン（つり上げ荷重2.95t）でヒューム管（重さ250kg）を降ろしていたときに、巻き上げワイヤが切断したためヒューム管が落下し、たて坑の中にいた者に激突した。	30110	4	1～9
2003	7	15 ～ 16	河口の護岸工事において、川岸において製作したバラスを仮置きするためドラグ・ショベルによりバラスをつつて旋回したときに、川岸から転落して放り出され、水中において川底と機体との間にはさまれた。	30107	1	10～ 29
2003	7	10 ～ 11	資材置場にある建屋内において、車両積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93t）を用いて荷台に積んでいた鉄筋1束（長さ5.5m、重さ1.84t）の積み卸し作業中に、車体が傾いたため前方にあった作業台と車体との間に胸部と頸部をはさまれた。	30209	2	10～ 29
2003	7	13 ～ 14	林道での枝の伐採作業において、トラッククレーンで運搬してきた高所作業車（質量約1.5t）を荷降ろしのためつり上げているときに、過負荷によりクレーンが横転して車体の下敷きとなった。	60201	2	10～ 29
2003	7	1 ～ 2	移動式クレーンのアウトリガーの敷板をつり上げるため、フックを降下させていたときに移動式クレーンが転倒し、敷板の近くにいた作業員の頭にブームが直撃した。	11301	6	1000 ～ 9999
2003	6	8 ～ 9	坑内でクレーン機能付きドラグ・ショベルでコンクリート製溜めますを敷設する作業で、運転手が後方より来たダンプ・トラックに停止合図を送るため操作席を立ち上がって身を乗り出したときに、体が操作レバーに触れたためブームが旋回し、溜めますの玉掛け用ワイヤロープを交換していた者がブームと溜めますとの間にはさまれた。	30102	7	10～ 29

2003	5	15 ～ 16	つり上げ荷重2.9tの車両積載形トラッククレーンで、重さ約1.1tのH鋼をつり上げ荷台に積み込むためトラッククレーンを旋回させたところトラッククレーンが横転し、トラッククレーンの車体と道路脇の縁石との間に胸部をはさまれた。	30107	7	10～ 29
2003	5	11 ～ 12	墓石の加工場内で、墓地土止め工事に使用するハンドガイド式の小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.5t）をトラックに積み込むため、トラックに背を向けたままトラック側面に向かってクレーンを後進で走行させていたときに、トラックと小型移動式クレーンとの間に腹部をはさまれた。	30199	7	1～9
2003	5	8 ～ 9	110t移動式クレーンの作業範囲を確認するため、つり荷なしでジブを最大に伸ばして旋回、起伏したときにクレーンが転倒し、地上で足場組立の資材準備のため移動中の者2名にジブが激突した。	30201	6	1～9
2003	5	8 ～ 9	110t移動式クレーンの作業範囲を確認するため、つり荷なしでジブを最大に伸ばして旋回、起伏したときにクレーンが転倒し、地上で足場組立の資材準備のため移動中の者2名にジブが激突した。	30201	6	1～9
2003	3	17 ～ 18	資材置場の駐車場において、トラックを方向転換させようとしたが雪のためスリップしたので、安全ネットを巻いて様子を見ていたところトラックが後退し始めたので止めようとしてトラックの後方に回り、トラック後部と資材置場の事務所壁面にあったスチールの棚にはさまれた。	30302	6	1～9
2003	3	10 ～ 11	空調機の室外機を建物屋上に搬入する作業で、ラフタークレーン（つり上げ荷重25t）でつり上げようとしたが、ブームでつり上げると建屋外壁に接触するおそれがあったので、継ぎジブの取付け準備中に突然ジブを固定しているジブフットピンが外れてジブが脱落し、車体とジブとの間に胸部および腹部をはさまれた。	40301	7	50～ 99
2003	3	8 ～	河川改修工事で、道路上から工事用の金網のロール2本（計425kg）を積載形トラッククレーン（最大積載量2.75t、つり上げ荷重2.93t）で荷	30107	6	10～

		9	降ろし作業を行っていたときに、車体が横転しクレーンの運転士が車体の下敷きになった。			29
2003	2	11 ～ 12	木材の搬出作業現場で、つり上げ荷重2.93tのトラッククレーンで材木（長さ8.8m、直径0.6m、重さ2t）を荷台に積込む作業を荷台上で行っていて、材木と車体との間にはさまれた。	10401	7	1～9
2003	2	9 ～ 10	消波ブロックの海中への設置作業で、2日前に設置した消波ブロックの1段目の位置にズレがあったので、起重機船のクレーンで2段目のブロックをいったん海中に仮置きして1段目のブロックを修正し、その後、2段目のブロックが再設置のためつり上げられたときブロックが突然揺れ、1段目のブロック上にいた者がこのブロックと設置済みのブロックとの間にはさまれた。	30111	6	10～ 29
2003	2	15 ～ 16	移動式クレーン（つり上げ荷重2.9t）を使用して、工事現場に運搬してきた電柱4本（2.4t／本）を荷台から降ろす作業で、3本目をつり上げたときに移動式クレーンが転倒したため、近くでスノーポールの設置作業をしていた者の後頭部に、荷台に積載されていた4本目の電柱が激突した。	30106	6	1～9
2003	1	11 ～ 12	トラック積載型移動式クレーンで、荷台から重さ1.42tのL型擁（よう）壁を下ろす作業中、トラックが横転しつり荷の下敷きになった。	30202	2	1～9
2002	12	16 ～ 17	刑務所の増築工事において、外壁の上で逃走防止用センサーの取付作業を行っていたところ、モッコを吊って旋回していたホイールクレーン（吊上げ荷重26 t）がバランスを崩して転倒してきて、モッコとブームとの間に挟まれた。	30301	6	10～ 29
2002	12	13 ～ 14	トラック積載型クレーン（2.63 t）で建設機械（質量1.3 t）を駐車場に降ろす作業中、クレーン車が転倒したためクレーンの操作者がクレーン車と脇にあった乗用車との間に挟まれた。	170209	6	30～ 49
2002	11	6 ～	4 tトラック（積載型移動式クレーン）に運送会社から依頼された荷物を積んで走行中、交差点を右折しようとして前から来た大型トラック	40301	17	10～

		7	と衝突した。			29
2002	12	17 ～ 18	作業構台上の水銀灯を移動させる作業を50 t クローラクレーンの立入 禁止区域で行っていたため、クレーンが右旋回したときにカウンター ウェイトと構台手すりとの間に挟まれた。	30201	7	10～ 29
2002	8	9 ～ 10	ダイオキシン対策のための焼却設備の増設工事において、屋根（高さ 約15m）に設けた開口部からトラッククレーンで荷（質量約4 t）を吊 り上げて搬入中、屋上の雨除け用シートの重しに使用していたH鋼に吊 荷が接触したため、H鋼（長さ4m、質量約200 k g）が落下し、一度 ダクトに当たってバウンドしたのち足場上で荷を待っていた者の背中に 激突した。	30302	4	10～ 29
2002	10	9 ～ 10	駅構内で積載型移動式クレーンを使用して枕木を荷台へ積み込む作業 中、枕木を吊り上げたときにジブが高圧線（2万V）に接触し運転者が 感電した。	30104	13	30～ 49
2002	10	14 ～ 15	根株付の材1本（質量約1 t）を県道脇の山林に降ろすため、積載型ト ラッククレーン（吊上げ荷重2.93 t）で吊上げ作業中、トラックク レーンが山林側に転倒したためクレーンとガードレールとの間に挟ま れた。	30199	6	1～9
2002	9	20 ～ 21	移動式クレーン（つり上げ荷重2.9 t）でガラスの梱包木枠（長さ 2.9m、幅1.8m、厚さ12mm、質量380kg）をトラックから荷卸しする 作業で、梱包木枠に玉掛けすべきところを専用スタンド台に玉掛けし て吊り上げたところ、梱包木枠が倒れて荷台で作業中の者が梱包木枠 とアオリとの間に挟まれた。	40301	7	1～9
2002	9	10 ～ 11	港湾荷役で使用したトラッククレーンのタワー（約6t）部分を港で解 体してトレーラーで自社の土場に運搬し、所定置場に置くためトラッ ククレーン（吊上げ能力35t）で吊上げて左旋回させたところ、側方吊 りの位置でクレーンが傾いたため、荷の振れ止めロープを持って荷と ともに移動してきた作業者の頭部に荷が落下した。	50202	4	50～ 99



2002	9	7 ～ 8	米海軍基地内で道路を横断していたときに、基地従業員運転の移動式クレーン（米軍所有、51 t ホイールクレーン）に激突された。	170209	6	1000 ～ 9999
2002	9	14 ～ 15	直径3.0m、深さ6.5mの掘削穴の中からボーリング用のケーシングパイプ（10本；200kg）を移動式クレーン（吊上げ荷重2.52t）で吊上げているとき、移動式クレーンのワイヤーロープが切断したためつり荷が穴の中にいた者の上に落下した。	30108	4	1～9
2002	8	15 ～ 16	自社の資材置場で、ホイールクレーン（吊上げ荷重45 t）のオイル交換を終了してクレーンの保管場所である駐車場に戻るため、資材置場から農道に左折した直後に対向車線の路肩から1.3m下の路外に運転席を下にして転落した。	20202	17	10～ 29
2002	8	14 ～ 15	杭打機設置のため、敷き鉄板をジブの伸縮しないクローラクレーンで吊り上げて所定位置に移動させる作業中、8枚のうち7枚目（1.5m×6m×20mm、質量約1.2t）を吊り上げ旋回していたときに突然巻き上げブレーキが効かなくなると鉄板が自然下降し、玉掛けを終わって待避しようとしていた者に激突した。	30105	6	1～9
2002	7	15 ～ 16	歩道舗装用ブロックを載せたパレットを車両積載型トラッククレーン（吊上げ荷重2.93 t）で吊上げて荷台に積み込む作業を2名で行っていたときに、他の場所のパレットを積むため車両積載型トラッククレーンが後進してきたため、後方にいた者が右後輪で腹部を轢かれた。	30199	7	10～ 29
2002	6	14 ～ 15	資材置場から搬入したコンパネ（一束約800kg）をつり上げ荷重2.52tのトラッククレーンで吊り下ろす作業中に、吊り荷が激突した。	170209	6	1～9
2002	6	8 ～ 9	木造家屋新築工事の現場に床合板（910×1820×25、数量18枚、質量約600kg）を小型移動式クレーン（つり上げ荷重2.93 t）で搬入し、足場上に仮置きしたのち建屋側に搬入するため再度クレーンで巻上げたところ、クレーンのワイヤーロープが切断して材料と小型移動式ク	40301	4	1～9

			レーンとの間に挟まれた。			
2002	6	16 ～ 17	軽自動車で県道を走行中、急な登りのカーブにさしかかった時に対向車線を走行してきたクレーン車とセンターライン付近で衝突した。	170209	17	10～ 29
2002	6	15 ～ 16	砕石プラントのスクリーン（石の大きさを選別する機械）架台の解体作業で、高さ約5mの箇所に設けられている架台（長さ約9.5m）の落下を防止するため移動式クレーンで吊った状態で溶断をしていたところ、接合部を焼き切ったときに吊っていた架台が回転し腹部に当たった。	11209	6	1～9
2002	6	15 ～ 16	自動車修理工場内で、3 t 積載型トラッククレーンのトラック後部ランプの点滅点検作業を行っていたところ、バックランプが点灯しないので同僚にエンジンを掛けるように指示したときに、トラックが突然バックしてトラックと壁との間に挟まれた。	11701	7	30～ 49
2002	5	9 ～ 10	宅地造成工事において、クレーン機能付き車両系建設機械でコンクリート製の排水溝の蓋9枚を不整地運搬車の荷台に積み込む作業中、荷台上で荷の誘導等をしていた者が不整地運搬車のダンプボデーと荷との間に挟まれた。	30109	6	1～9
2002	5	10 ～ 11	作業道に使用する杉丸太材を積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93 t）で運んできて道路端に仮置きし、ジブの長さ5.46m、傾斜角50度、アウトリガー最小張出しの状態では12本の丸太材を吊り上げて左旋回させ、既に置いていた丸太材の上に置こうとしたときにクレーンが右側に横転し、逃げ遅れて頭部をクレーンと丸太材との間に挟まれた。	60209	6	1～9
2002	3	8 ～ 9	積載型トラッククレーン（つり上げ荷重2.93 t）の荷台から小型ドラグショベルを吊り下ろしていたところ、トラッククレーンが転倒しトラッククレーンの操作者がトラッククレーンに挟まれた。	30110	7	30～ 49
			つり上げ荷重2.75 t のクローラークレーンで、約5m四方の開口部から地下の構台に使用していた溝型鋼の廃材（質量約1.1 t）を地上へつり			

2002	4	14 ～ 15	上げる作業中に1階床の梁部の鉄筋1本が約1.7m張出していたので、それをかわすためクレーンのブームを伸ばして伏せていたところ、クレーンが転倒し開口部からクローラクレーンとともに地下1階へ墜落（5.1m）した。	30201	1	30～ 49
2002	2	0 ～ 1	橋梁補修工事において、橋梁基礎補強のための「場所打ち杭」の作業でクローラクレーンでケーシング鋼管（長さ3m、直径1.5m）を吊り上げ連結していたところ、連結部分がはずれて手前に振られた形となり、ケーシングと既設の杭（地上部に出ている杭継ぎ足し用鉄筋部分）との間に頭部を挟まれた。	30105	6	1～9
2002	3	0 ～ 1	伐出現場で伐倒木を移動式クレーン（つり上げ荷重2.93 t）で林道に引き上げる作業中、引いていた伐倒木7本（長さ約3mから4m）が横に振れ、付近にいた作業員が伐倒木と岩との間に挟まれた。	60201	6	1～9
2002	2	10 ～ 11	バックホーによる大型ブロック（1.2 t）の据付け作業で、据付け微調整のため運転手が作業員へ位置の状態を話すために運転席の脇から顔を出し、その後運転席へ座ろうとしたときに左肘が操作レバーに当たったためアームが手前に動いてブロックがずり落ち、ブロックと掘削面との間に作業員が挟まれた。	30106	7	50～ 99
2002	3	11 ～ 12	スクリーン設置工事において、排水の異物分別用アルミ製枠（スクリーン、約1.1t）の設置のため、クレーンで吊り上げて既設の溝に嵌る作業中、上手く嵌らないので玉掛けフックを付け替えたときにスクリーンが溝から滑り激突された。	30199	6	1～9
2002	1	16 ～ 17	移動式クレーン（25 t）で鋼矢板（長さ9.5m、重さ約600kg）の吊り上げ作業中、玉掛け用シャックルから鋼矢板が外れて激突された。	170209	4	50～ 99
2002	1	14 ～ 15	資材置場において、搬送されてきた機器スクラップを車輛積載形トラッククレーン（つり上げ荷重2.93 t）で荷降ろしするため、荷台上で作業中に荷台後部のあおりに引っ掛かり、荷台（高さ1.1m）から転	11301	1	30～ 49

			落した。			
2002	1	14 ～ 15	移動式クレーンの旋回半径内のアウトリガー付近に立っていて、旋回してきた上部旋回体とアウトリガーとの間に挟まれた。	30109	7	30～ 49
2002	1	17 ～ 18	耐震対策のための鋼板設置工事において、交通整理員が移動式クレーンの旋回範囲に立ち入り、クレーンのカウンターウエイトと鋼管手すりとの間に挟まれた。	170201	7	10～ 29
2002	1	15 ～ 16	公園整備工事において、クレーン機能（最大吊上荷重1.7 t）付ドラグショベルにより自然石階段の施工作业中、石（71×61×50cm）が旋回したときに玉掛者に激突した。	30199	6	30～ 49
2002	1	7 ～ 8	資材置場において1人で片付をしているときに、近くで作業中の移動式クレーン（2.52t）が倒れ、クレーンと地面との間に挟まれた。	30106	7	10～ 29
2002	1	11 ～ 12	鉄板（長さ6m、巾1.5m、厚さ2cm、重量1.6t）を車両積載型トラッククレーン（2.9 t吊、リモコン操作）の荷台に載せるときに鉄板を斜めに吊ったため、鉄板が滑りトラックの荷台と鉄板との間に挟まれた。	40301	6	1～9
2001	12	9 ～ 10	防火水槽設置工事において、道路上に移動式クレーン(45t吊)を設置し防火水槽の部材(約9t)を高さ約7mまで吊り上げ左方向に旋回したところ、右側後部のアウトリガー設置箇所の路肩が崩壊したため移動式クレーンが転倒し、ジブの下敷きになった。	30199	6	100 ～ 299
2001	8	14 ～ 15	重さ約0.4tの鋳鉄管をバックホー(2.9t)で吊り深さ2.64mの掘削坑に布設するとき、土留のサポートを避けるため繰り返し坑内で鋳鉄管を移動をさせていて、4回目くらいに鋳鉄管を吊上げたところ荷が動いて管と土留壁との間に挟まれた。	30110	6	10～ 29
2001	12	～	薪を山から搬送し、移動式クレーン(2.93t)で雑木(一束約150kg)を荷台から地上に降ろす作業を行っていたときに、クレーンが転倒し、下	30106	7	1～9

		16	敷きになった。			
2001	12	14 ～ 15	試験杭の打ち込み作業において、上杭(φ800mm・長さ11m・重さ9.74t)を主巻きにより吊り込み、オーガーへ取り付けるため玉掛け作業を行っているときに、クローラクレーンが傾いて吊り上げていた杭材が激突した。	30109	6	10～ 29
2001	12	16 ～ 17	雨水管渠ボックスカルバート(14.5t)の据付作業で、ボックスカルバートを45tラフタークレーンで吊り上げ微調整を行っていたときに吊り上げたボックスカルバートが振れ、ボックスカルバートと土止め用矢板との間に頭部を挟まれた。	30110	7	10～ 29
2001	12	13 ～ 14	45tラフタークレーンを道路工事現場へ搬送するため走行中、緩い右カーブで地吹雪等により視界が悪く、路面がアイスバーン状態であったため運転操作を誤り、路肩下へ転落して運転席の上部が潰れ、運転席のアーム部分に挟まれた。	80409	17	1～9
2001	12	11 ～ 12	移動式クレーンで交差点を左折していたときに、アーム部分が前方から直進してきたトラックにぶつかり、トラックの運転手が死亡した。	40301	17	10～ 29
2001	10	7 ～ 8	港の砂場に運搬してきた砂利をバージ船に揚げる作業をクレーンによって行っていて、砂利の入っていた船倉内で作業をしているときにクレーンのバケットと船倉の壁との間に挟まれた。	40102	7	1～9
2001	11	20 ～ 21	160tトラッククレーンのカウンターウエイトの取付け作業で、4段のカウンターウエイトのうち連結された1段目と2段目のウエイトを積み込み、3段目のウエイトを吊るため旋回したところ、連結ピン外しの作業を行っていた者が上部旋回体とカウンターウエイトとの間にはさまれた。	80409	7	10～ 29
2001	11	9 ～ 10	墓石の据付けのため移動式クレーン(吊り上げ荷重2.5t、非乗車式)を操作して墓地入口の斜面(斜度18度)を登り切ったときに、急に移動式クレーンがバックしてきて斜面下まで約1.9m転落し、その下敷きになった。	10909	6	1～9

2001	10	11 ~ 12	<p>タワークレーンを解体する為、移動式クレーンの補巻(能力6.75t)を用いてタワークレーンのジブ(重さ4.6t)を吊上げたところ、補巻ワイヤーロープが切れジブが落下した。この時、Aフレーム上で介錯作業に従事していた被災者にジブが激突したと思われ、そのままAフレーム下部ステージまで墜落。また、ジブが落下途中Aフレーム下部ステージに激突しステージごと落下。そこで別の作業をしていた被災者も地面まで墜落した</p>	30201	4	30~ 49
2001	10	11 ~ 12	<p>タワークレーンの解体で、移動式クレーンの補巻(能力6.75t)を用いてクレーンのジブ(重さ4.6t)を吊上げたところ補巻ワイヤーロープが切れジブが落下し、フレーム上で介錯作業に従事していた者にジブが激突し、そのままフレーム下部ステージまで墜落した。また、ジブが落下するとき下部ステージに激突し、そこで別の作業をしていた者も地面まで墜落した。</p>	30201	4	10~ 29
2001	10	9 ~ 10	<p>25tラフタ?クレーン(四輪操舵)のリアステアリングストッパーの修理のため現場である国道に行き、クレーン車輛後部をジャッキアップして左後輪タイヤハウス内の後輪車軸後方で修理作業を行っていたときに、急に舵取りした左後輪タイヤと車体との間に胸部をはさまれた。</p>	30309	7	50~ 99
2001	10	10 ~ 11	<p>上水道管布設工事において、掘削溝(深さ2.5m、幅2.2m)の中で溝内に仮置した管(長さ6m、直径0.8m)を移動式クレーン(吊り上げ荷重25t)でつり上げて布設箇所へ移動しているときに、土止め支保工の切梁と管との間に頭部を挟まれた。</p>	30110	6	1~9
2001	8	7 ~ 8	<p>直径1.5m、長さ3m、重さ3.34tの基礎杭工事用のアースオーガのケーシングをクローラクレーン(吊り上げ荷重35t)でトラックに積み込み中、介錯ロープがケーシングにからまったので取り外そうと近づいたときに、クレーン運転者が自由下降の足踏みブレーキを放してしまったため、ケーシングが落下し激突した。</p>	30201	4	10~ 29
		9	<p>建設工事現場において、濁水処理装置(重量約1.5t)を2.9tの移動式クレーン(トラッククレーン)で荷卸し中、濁水処理装置が移動式クレーン</p>			30~

2001	9	～ 10	のフックとともに移動式クレーンの荷台に落下し、地面に横転したため、荷卸しの誘導員が濁水処理装置の下敷きになった。	30102	4	49
2001	9	～ 6	杭打ち工事において、地質がボーリング調査結果と異なるのでボーリングマシンのビット交換を行うため、ボーリングマシンから取り外したビット(約800kg)を小型クローラークレーン(吊上げ荷重2.52t)で吊上げ、旋回したときにクレーンが転倒し、玉掛け者がブームとビットとの間にはさまれた。	30201	6	10～ 29
2001	9	～ 10	自動車道の4車線化工事において、積載型トラッククレーンで次のガードレール基礎を設置するためにトラックを移動しようとアウトリガーを上げたところ、トラックが坂道を逸走し始めたので運転席に乗り込んで停止しようとトラック前方に回り込んだときにトラックにひかれた。	30106	7	30～ 49
2001	8	～ 15	建物の新築工事において、積載型移動式クレーン(2.9t)で7枚目の鉄板(1.6t)を吊って左旋回をしていたところ、急に右旋回を始めたため、逃げ遅れた手元が鉄板と移動式クレーンの車体との間に挟まれた。	30201	7	30～ 49
2001	8	～ 12	岸壁に係留された台船上の杭打ち機の作業台でケーシングの建込作業をしていたところ、ケーシングを吊っていた浮クレーンのワイヤーが緩んでクレーンの合図者の頭部に浮クレーンのフックが激突した。	30111	6	10～ 29
2001	8	～ 16	杭打工事において、クローラークレーン(吊上げ荷重50t)の主巻フックに接続されている天秤にベッセルを装着するために天秤から玉掛けワイヤーを外し主巻フックを自由降下したときに補巻フックに取付けられているキャップと接触したため、天秤が主巻フックから脱落し真下で作業を行っていた者の頭部を直撃した。	30199	4	30～ 49
2001	8	～ 11	跨線橋改良工事において、橋台基礎杭のコンクリート打設のため移動式クレーン(吊上げ荷重60t)で引き抜いたケーシング(質量約4t)を直立の状態一旦地上に降ろし、その後移動式クレーンで横に倒そうとしたときにケーシングの接地部が滑り、近くにいた者がケーシングと杭	30105	6	1～9

			打機との間に挟まれた。			
2001	7	11 ～ 12	個人宅新築工事において、2階通柱に取り付けたブラケットに掛け渡した足場板上(高さ5.8m)で移動式クレーンで吊り上げた管柱・軒桁を胴差しに取り付けたのち、吊荷の一方の玉掛用具をフックから外したときに、移動式クレーンのワイヤーロープが巻き上げられたため、もう一方の外されていない玉掛用具に吊られた荷が振れて当り2階床面開口部より墜落した。	30202	6	1～9
2001	4	14 ～ 15	宅地造成工事において、吊り上げ荷重2.9tの車両積載型トラッククレーンの荷台に積まれた質量1780kgの側溝を吊り降ろす作業で、ジブを右方向に旋回させ作業半径3.5mにブームを伸ばしたときクレーンが傾き、最初に降ろした側溝とクレーンの助手席のドアとの間にはさまれた。	30109	7	1～9
2001	6	13 ～ 14	トラッククレーン(4.9t)で雨水幹線用のコンクリート管(内径1.1m、質量2.0t)を地中(掘削深さ約4m)に降し、コンクリート管から玉掛ワイヤーを外しているときに掘削壁とコンクリート管との間に挟まれた。	30110	7	10～ 29
2001	6	15 ～ 16	建築廃材の入った小コンテナ(約500Kg)を積載型小型移動式クレーンで吊り上げ荷台の大コンテナへ積み替え撤去する作業で、荷台上でリモコン操作により小コンテナの廃材を大コンテナに空けているときに、立てていた小コンテナが倒れ小コンテナと大コンテナとの間に挟まれた。	170209	7	1～9
2001	6	9 ～ 10	木造2階建住宅の新築工事において、歩道に仮置された外壁パネル(10枚、質量1280kg)をトラッククレーン(吊上げ荷重4.9t)で吊上げ1階の仮床中央に降ろそうとしてジブをいっぱい伸ばし倒していったとき、車体の左側部が浮き上がってジブの先端が下がり、吊っていたパネルが1階仮床上で待機していた者に激突した。	30202	6	100 ～ 299
		11	橋桁下部に設置していた吊り足場の解体作業において、吊り上げ荷重2.9tのトラック積載型クレーンに同僚が橋桁下部で解体材を玉掛け			10～



2001	6	～ 12	し、これを巻上げているときにクレーンが転倒し、クレーンと橋の高欄との間にはさまれた。	30105	6	29
2001	6	～ 16	マンション新築工事において、小型移動式クレーンで運んだ木製の梁受けをクレーンの荷台から降ろす作業をリモートコントロール装置を使用して行っているときに、玉掛け用つりチェーンの一部が破断して吊り荷が落下し頭部に激突した。	30201	4	1～9
2001	5	～ 10	9 移動式クレーンを使用して墓石の移動作業中にクレーンが転倒し、その下敷きになった。	10909	6	1～9
2001	3	～ 11	10 トラッククレーンの荷台からロッジ風物置の基礎工事事用資材(型枠組立用のバタ角等)を降ろし、現場に運ぶ作業中に荷台にあるクレーンのジブ先端に頭を打ちつけ4日後に意識を失って死亡した。	30202	3	1～9
2001	1	～ 12	11 墓地内の木を伐採するため、木の枝を移動式クレーンで吊り枝の根元を別の枝からチェーンソーで切断していたときに、切断していた枝が跳ねて体に当り、約8m下のコンクリート上に転落した。	60201	6	1～9
2001	1	～ 14	13 発電用の風車設置のための基礎工事において、コンクリート基礎上に組立てたベース筋に鉄筋を柱筋として組立たがねじれが生じたため、ワイヤーを掛けて移動式クレーンで引いたところ、柱筋が倒壊し、その下敷きになった。(1名死亡、4名軽傷)	30203	5	1～9
2001	3	～ 14	13 小型移動式クレーンを使用して培養土をトラックに積み込んでいたが、過荷重のためクレーンが横転し、クレーンに平行して止めてあったトラックとの間に挟まれた。	80209	6	1～9
2001	3	～ 16	15 移動式クレーン(吊上荷重12t)で村道(コンクリート舗装・道幅約3m)を走行中、山肌からはみ出している樹木を避けようとして路肩を走行していたところ、路肩が崩壊し約3m下の谷に転落、横転した。	40301	17	10～ 29
2001	3	～	2 吊り上げ過重2. 8tの移動式クレーンを洗車場横の傾斜地(傾斜角度5度)に停車させ降りたところ、クレーンが動き出したので停車させるため	40301	7	30～

		3	運転席に戻ろうとしたときに、車両と門柱の間に挟まれた。			49
2001	2	8 ～ 9	浚渫船を移動するため係留に使用していた約27tのコンクリートアンカーを120t浮きクレーンを用いて海中から引き揚げ、船上のクラムバケットの横に降ろす作業中、クラムバケットとコンクリートアンカーとの間に立ち入って頭部を挟まれた。	30111	6	100 ～ 299
2001	1	11 ～ 12	工場構内の、排水管(径70cm)を取替えるため排水管を移動式クレーンで吊りながら溶断していたところ、排水管のL部が支持していた架台にひっかかったので直そうとしていたときに、突然、架台から外れたためその反動で排水管(2.7t)が揺られクレーンの合図者が排水管と既設の排水管との間に挟まれた。	30302	6	1～9
2001	1	11 ～ 12	地下横断道の築造のため型枠材を地上の小型移動式クレーン(トラック積載型)で開削した溝の(約6m)の定盤上に降していたところ、クレーン車が横転したため、クレーンの助手席の扉部分と手すりとの間にはさまれた。	30106	7	1～9
2001	1	13 ～ 14	工場の塔屋の鉄骨組立作業で、柱部材2組と屋根部材を接合するためフォークリフトに立てかけた柱に登りボルトの仮締め作業を行っていたところ、クレーンで吊っていた反対側の柱を右旋回させたため部材が屋根部材に当たった反動でもう一方の柱が倒壊し柱の下敷きになった。	30309	5	1～9
2001	1	9 ～ 10	墓石据え付け作業において、道路から2.65m下の霊園内に墓石運搬用のカートクレーン(重量1.1t)を降ろすため、積載型トラッククレーン(吊上げ荷重2.5t)で吊上げたときに、作業半径3.36mの地点で同トラッククレーンが転倒し、トラッククレーンとガードレールとの間に体を挟まれた。	10909	6	1～9
2000	10	7 ～ 8	吊り上げ荷重2.9tの積載型トラッククレーンのサイドあおりを倒して、クレーンで鉄板(質量800kg)の積み込み作業中、鉄板を荷台に降ろしたときにスリングロープが鉄板の穴から外れ、荷台横の路上にいた	30209	4	1～9

			者が鉄板とブロック塀との間に挟まれた。			
2000	10	13 ~ 14	吊り上げ荷重25tのホイールクレーンの左後方にあるマフラーの排気管を交換する作業をクレーンオペレーターと2人で行うため、クレーンオペレーターが作業しやすいようにクレーンの左後輪を動かしたところ、想定していたタイヤの向きとは逆に動いたため、車体とタイヤとの間に挟まれた。	11701	7	1~9
2000	3	16 ~ 17	積載型トラッククレーン(2.93t)で荷台から型枠材30本1束を積み降しているときに、玉掛用具のチェーンが切断し、アウトリガー上でクレーン操作を行っていた者に吊荷が落下した。	30105	4	10~ 29
2000	6	13 ~ 14	橋の上部工工事において、トラッククレーンでコンパネ40枚(約450kg)を固定した番線にチェーンを掛けて地切り(約50cm)し、玉掛け用チェーンに付替えようとして吊荷の下に通したが途中で止まったため、吊荷の下に身体を入れてチェーンを引き出そうとしたときに、番線が切れて荷の下敷きになった。	30105	4	10~ 29
2000	8	11 ~ 12	県道の街路樹整備作業で、移動式クレーン(吊り上げ荷重2.93t)のクレーン操作をするために運転席側の窓越しに外側からエンジンをかけたところ、移動式クレーンが逸走し3m前方で作業を行っていた者をひいた。	60101	17	0
2000	2	12 ~ 13	移動式クレーンで荷の運搬中、ブームの先が高さ約7.6mのところにある鉄道の高圧電線に触れ、クレーンのオペレーターが感電した。	30301	13	10~ 29
2000	2	15 ~ 16	廃車するワゴン車(重量約1t)を積載型トラッククレーン(吊り上げ荷重2.93トン)で運び込み、廃材置場に降ろすため吊り上げて旋回させたときにクレーンが転倒し、廃材との間に挟まれた。	30199	6	1~9
2000	1	3 ~ 4	仮設踏切に木製枕木を敷設する工事で枕木を積載型移動式クレーン(吊り上げ荷重2.93t)で吊り降ろそうとしたときにブームが鉄道架線(2万V)に接触し感電した。	30309	13	1~9

2000	5	9 ～ 10	吊り上げ荷重2.63tの移動式クレーンで、荷台の瓦(300枚900kg)を降ろす作業中に、クレーンがバランスを失って倒れその下敷きになった。	10905	6	1～9
2000	10	8 ～ 9	積載型移動式クレーン、吊り上げ荷重2.02tで残土(質量約300kg)を荷台から降ろしていたときに、吊り上げていた荷とともに移動式クレーンが倒れて下敷きになった。	30301	5	10～ 29
2000	8	10 ～ 11	移動式クレーンで塩化ビニール管(長さ5.5m、重さ15kgのものを約130本)をトラックの荷台から降ろしていたところ、吊り上げていた荷とともに移動式クレーンが倒れ、降ろし終わっていた荷と移動式クレーンとの間にはさまれた。	40301	6	10～ 29
2000	9	11 ～ 12	製品を納品して7.5tトラックで県道を走行中、反対車線を走行して来た積載型トラッククレーン(吊り上げ荷重2.93t)のジブ右側面が電柱と接触した反動でジブが180度旋回し、7.5tトラックの運転席を突き破り、トラックはセンターラインを超えて反対車線の後方を走っていた他の移動式クレーン車に衝突した。	11709	17	1～9
2000	6	18 ～ 19	フローティングクレーンによる高潮対策工事の作業を終えて帰港したのち、見通しのきくクレーン後部カウンターに登り船と埠頭の位置を確認して4箇所のウインチを操作する各作業員に合図を送っていたときに、足を踏み外して2.95m下の甲板上に墜落した。	30111	1	30～ 49
2000	10	11 ～ 12	自動車道の橋脚工事において、吊り上げ荷重55tクローラークレーンで橋脚の吊り足場の高さを調整していたときにクレーンのジブが折れ、橋脚頂上部で作業していた者がジブの下敷きになった。	30105	6	1～9
2000	7	13 ～ 14	工場新築工事において、2名でトレーラーに積まれた鉄骨梁10本(H型鋼2段積み)をホイールクレーン(35t)を用いて荷卸しするため、クランプで玉掛けしようとしたH鋼の隣接の1本が荷台から落下し、傍に居たトレーラーの運転手に激突した。	40301	4	10～ 29
		11	2.9t吊り積載型移動式クレーンでバケツを吊り立坑内(深さ6.4m)に降ろしてコンクリートの打設作業を行っていて、最後のコンクリート			

2000	9	～ 12	量の調整を行い、半分ほど残ったコンクリート(推定400kg)を上引き上げ中にワイヤーロープが切れてバケツが立坑内に落下し、中で作業中の者の背中を直撃した。	30110	4	10～ 29
2000	6	～ 15	ヒューム管の補修工事において、工事が終了したので、2.93tの移動式クレーンで重さ800Kgの発電機をトラックに積むため吊り上げたときにクレーンが傾いて発電機が地上に落下し、その下敷きとなった。	30107	6	1～9
2000	9	8 ～ 9	H鋼構造物の防錆用塗装で使用する簡易マスクを取りに行き、その間に別の作業員が小型移動式クレーンを17mほど後退させたところ、運転に違和感を覚えたので停止させて見ると、マスクを取りに行った者が車体下部に倒れていた。	150102	7	10～ 29
2000	6	9 ～ 10	吊り上げ荷重2.93tの積載型トラッククレーンで石膏ボードを満載した鉄製容器を荷台へ積み込む作業を行っていたときに、横のコンテナの上の角材(0.3×0.3×4m)に容器が接触したため、角材が落下しクレーン運転者に当たった。	150102	4	1～9
2000	11	0 ～ 1	工事現場から型枠材を積載型トラッククレーン(2.95t)で資材置場へ運び、降ろす作業中にクレーンが転倒しその下敷きになった。	30108	6	10～ 29
2000	9	～ 15	製材の際に出る廃材を束ねたもの(重量840kg)をトラック積載型移動式クレーン(2.0t)で降ろす作業中にクレーンが転倒し、そのときに2.7m下に転落した。	10401	2	1～9
2000	11	8 ～ 9	トラッククレーン(吊り上げ荷重2.9t)で走行中、ジブ先端がずい道の入口に衝突し、その反動でハンドルに腹部等を激突した。	30199	17	1～9
2000	8	17 ～ 18	寺改装工事において、ミニクローラークレーン(1.5t)による手水鉢の設置作業を終了し、ミニクローラークレーンをトラックの荷台にバックで積載させたときに、後方に気を取られていたためクローラークレーンとトラックの運転席後部との間にはさまれた。	30202	7	1～9

2000	7	14 ～ 15	木造家屋建設工事用の柱材等を運ぶため吊り上げ荷重2. 93tの移動式クレーンに製材した12cm角の柱材を5段積みし、その上に垂木等を積み重ねようとしていたときに、約1. 9mの高さから垂木等とともに墜落した。	10401	1	1～9
2000	12	11 ～ 12	浄水場入口のスロープで積載形小型クレーン車が動かなくなったので、荷台のコンプレッサー4台を荷卸していたところ、荷が他のコンプレッサーに接触して下方にすべり落ちはじめたので、それを止めようとして隣接する建物の壁とコンプレッサーとの間に挟まれた。	30199	7	1000 ～ 9999
2000	8	9 ～ 10	25tラフタークレーンで地盤改良のためのウェルポイント用パイプの引き抜き作業で、クレーンを移動して引き続き作業を行うために鉄板(1. 6t)を吊りあげて旋回中にクレーンが転倒し、鉄板の敷設先付近で待機中の者が転倒してきた伸縮ジブに挟まれた。	30201	6	30～ 49
2000	2	10 ～ 11	3名で移動式クレーンを使用して土止め支保工用鉄製矢板の降ろし作業を行っていたところ、荷と運転席後部が接触したために荷の方向が変化してバランスが崩れクレーンが横転し、荷台上に居た2名のうち1名は横転直前に避難したが1名は道路わきのステンレス製柵と同移動式クレーンとの間に挟まれた。	30199	7	1～9
2000	1	16 ～ 17	35tトラッククレーンで船内から巻き取りロール紙5個吊をり上げたところ、起伏用ワイヤーロープが切れ、同時にジブが前に倒れたためデッキ上の合図マンがジブに挟まれた。	50202	4	10～ 29
2000	11	8 ～ 9	宅地造成工事において、吊り上げ荷重2. 9トンのクローラクレーンで長さ4メートルの単管53本(約580kg)を吊り上げているとき、クローラクレーンが左側に転倒しオペレータが下敷きになった。	30109	2	10～ 29
2000	1	14 ～ 15	コンクリートブロック(重量15kg)80個を納品するため、道路上で、2. 95tのトラッククレーンを用いて、荷台からパレットに積んだまま降ろそうとしたときに、トラッククレーンが横転し、運転席ドアと土留め壁の間に挟まれた。	80209	2	10～ 29
		9				

2000	5	～ 10	クレーン付トラックでドラグショベルのバケット部分を回収する作業中、無人の状態で逸走(後退)したクレーン付トラックにひかれた。	30199	7	50～ 99
2000	5	16 ～ 17	資材置場において、仮置きしていたコンクリート柱を建柱車の荷台に載せて移動し、建柱車のクレーンで柱2本を降ろしたときに建柱車が転倒し、クレーンのブームと地面にあったコンクリート柱との間に挟まれた。	30301	6	1～9
2000	6	16 ～ 17	納品を終え貨物自動車で行中、国道を右折していたところへ後続の移動式クレーン車がブレーキが利かなくなったために交差点へ進入してきて衝突し、貨物自動車、移動式クレーン車とも道路下4メートルの水田に転落した。	80209	17	10～ 29
2000	11	17 ～ 18	現場で使用していた鉄板を資材置場に搬入し、小型移動式クレーン車(吊り上げ荷重2.9t)で鉄板(1.6t)を下ろしていたときに、荷台に何も積んでいないクレーン車が傾いたため、脇に積み上げられていた鉄板と倒れてきたクレーン車のドアとの間に頭部を挟まれた。	30199	7	10～ 29
2000	3	10 ～ 11	資材置場において、ドラグショベルを用いて簡易土止め支保工を積載形トラッククレーンで荷台上に積載しているときに支保工が荷台から落下、その下敷になった。	40301	4	10～ 29
2000	8	13 ～ 14	岸壁の浚渫工事において、台船上のクラムシェルで作業中、左旋回したときに稼働半径内に居た者が甲板上の汚泥プール(高さ0.9m)と旋回体との間に挟まれた。	30111	7	10～ 29
2000	6	10 ～ 11	浮きクレーン(吊上げ荷重100t)上で12.5t型テトラポットを海中に据付ける作業で、7個目を吊るためにクレーンを右旋回したときに、下にいた者がクレーンの運転室への昇降用階段と甲板上の燃料ハッチとの間に挟まれた。	30111	7	100 ～ 299
2000	6	17 ～ 18	倉庫新築工事現場において、積載型トラッククレーン(2.9t)で運搬してきた鉄骨を荷台から降ろす作業中に、荷台端に2段に重ねてあった鉄骨の1本が崩れたため、崩れた鉄骨付近で合図と玉掛け作業を行ってい	30201	4	50～ 99

			た者が地面に投げ出され落下してきた鉄骨(600kg)に頭を直撃された。			
2000	3	0 ～ 1	海上ボーリング調査用台船の支柱組立のため、2. 9t移動式クレーンで重量約300kg、長さ約5mの支柱を吊上げ左旋回中、台船端の支柱取り付け金具に接触したため衝撃で荷が振れて玉掛けワイヤーがずれ、いわゆる一本吊状態となって片側が落下し、近くにいた者が荷の下敷きとなった。	30199	6	1～9
1999	12	6 ～ 7	県道を10トントラックで走行中、道路脇から出てきた20トンクレーン車と衝突し、クレーン車のジブが運転席部分に突き刺った。	40301	17	50～ 99
1999	12	16 ～ 17	りんご農家より依頼のあった肥料(フレキシブルコンテナ、重さ約800kg)を積載型トラッククレーン(つり上げ荷重2. 52t)で降ろす下ろす作業中、トラッククレーンが畑に転落し、その下敷きになった。	170209	1	1～9
1999	12	15 ～ 16	落石防止柵として打込んでいたH型鋼(長さ8m、重さ800kg)を移動式クレーンで引き抜いて吊り上げた状態で根元に付いているコンクリート塊(200kg)をブレーカーで小割して剥がした直後に、玉掛用具からH型鋼が外れて落下し、ブレーカーの運転席に倒れて運転者がH型鋼の下敷きになった。	30106	4	10～ 29
1999	11	16 ～ 17	車両積載型トラッククレーンで鉄板を荷台から地面におろす作業を行っていたところ、クレーンが横転したため倒れてきたクレーンと掘削面に設けた土止板との間に胸部を挟まれた。	30202	6	1～9
1999	11	8 ～ 9	積載形トラッククレーン(つり上げ荷重2. 93t)で発電機(重さ約1. 3t)をトラックの荷台から吊り降ろしていたところ、クレーンが転倒したためクレーンとガードレールとの間に挟まれた。	30106	2	10～ 29
1999	10	11 ～ 12	ケーブルクレーンのワイヤー(重量約0. 5t)を移動式クレーン(吊上げ荷重4. 9t)で吊上げて右旋回中に、右前アウトリガーが敷角からはずれたため、移動式クレーンが前方に滑り落ち、移動式クレーンとその前方にあったユニック車の中にいた者が挟まれた。	80209	7	10～ 29



1999	9	10 ～ 11	吊上げ荷重35tの移動式クレーン(トラス構造)のジブ先端に上がったときに、約16m下の路面に墜落した。	50101	1	30～ 49
1999	9	20 ～ 21	埠頭においてトラッククレーン(吊上げ荷重80t)を使用して鋼材船からH型鋼(3.7t)を陸揚げ中、二段重ねに置いたH型鋼がトラッククレーンでワイヤーロープを引きぬく際に落下したため、玉掛作業者が下敷になった。	50202	5	10～ 29
1999	9	7 ～ 8	資材置場において、搭載形小型移動式クレーン(吊上げ荷重2.93t)で鉄骨カッター(鉄鋼製・重量約2t)を吊り上げたところ、同クレーンが横転し、その下敷きになった。	30199	6	10～ 29
1999	8	14 ～ 15	畑を整地するため、2.9t移動式クレーンで機体重量約3tのドラッグショベルを吊り上げ、道路わき約2m下の畑まで降ろしていたところ、移動式クレーンが道路端に設置されたガードレール側に傾いたためクレーン車体とガードレールとの間に胸を挟まれた。	30199	6	10～ 29
1999	8	9 ～ 10	基礎地中梁配筋作業に使用する鉄筋をラフテレーンクレーン(吊り上げ荷重45t)で吊り込み作業中、クレーンが転倒し、材料の玉はずし作業者に、クレーンのジブが激突した。	30201	6	1～9
1999	8	11 ～ 12	植栽に使う苗木を車輛積載型トラッククレーンに積載して走行中、カーブを曲がりきれずにガードレールを突き破り50メートル下の谷底へ車ごと転落した。	30309	17	10～ 29
1999	5	6 ～ 7	建設現場の廃材を収集するためクレーン車で走行中、反対車線側の歩道施設に激突・横転し、車外に放り出された。	150102	17	50～ 99
1999	7	7 ～ 8	配送先の石材置き場において、車両積載型クレーン(13.5t)の荷台から積載した石材10個(1個700～800kg)の荷降ろし作業中に近接する電話線にジブを接触させてしまったため、クレーンのジブ上から電話線の破損状況を確認していて墜落した。	40301	1	10～ 29

1999	7	9 ～ 10	小型移動式クレーン(吊上げ荷重2.93t)で発電機(1.6t)を吊り上げたところ、過荷重の状態になってクレーン車が転倒し、車体左側(助手席側)とガードレールとの間に挟まれた。	30106	6	50～ 99
1999	7	8 ～ 9	ゴミボックスに入れた建築廃材を車両積載形トラッククレーンに積んで産業廃棄物処理場に運び、ゴミボックスを横転させて中の建築廃材を投棄しようとしたところ、クレーンの定格荷重を超えたために横転し、その下敷きとなり死亡した。	150102	2	50～ 99
1999	7	23 ～ 24	駅構内のご線橋新設工事において、500トンの移動式トラッククレーンの高さ約3メートルのところから墜落した。	30105	1	10～ 29
1999	6	22 ～ 23	クローラクレーンでトラックの荷台の排水デリバリーホースをつり上げ左旋回したときに、水タンク上の合図者の指示でジブを伸ばしたところ、クローラクレーンが倒れ、合図者が水タンクと倒れてきたジブにはさまれた。	30105	6	30～ 49
1999	6	10 ～ 11	鉄骨造2階建て貸事務所の新築工事で、移動式クレーンにより運ばれて来た梁材を所定の位置に納めるため、柱に抱きついた形で右手を梁材にかけて誘導していたとき、移動式クレーンのジブがクレーン上方10.9mの電線に接触したため、感電した。	30201	13	1～9
1999	5	5 ～ 6	移動式クレーンで荷役作業を行うため、港に到着してから約5分後にクレーン後方に倒れているところを他の作業員に発見された。	80409	1	10～ 29
1999	4	16 ～ 17	マンション新築現場で、足場板15枚を55tクローラクレーンで吊り上げていたときに、玉掛ワイヤーから荷が抜け落ちてきて下にいたがガードマンと激突した。	170201	4	10～ 29
1999	3	15 ～ 16	移動式クレーンを用いて型枠材を移動中、クレーンが転倒したためクレーンとあらかじめクレーンの側方に置かれていた資材との間に挟まれた。	30201	2	10～ 29

1999	3	9 ～ 10	はつり後のコンクリート片をワイヤーモッコに入れ移動式クレーン(吊り上げ荷重2.93トン)で吊り上げて旋回したときに、クレーンがバランスを崩して横転し、オペレーターがクレーンと橋の欄干との間に挟まれた。	30199	2	0
1999	3	9 ～ 10	現場内に敷いてある鉄板を積載形トラッククレーン(2.7t)で片付けるため、クレーンを勾配約10度の坂道に止めて、重さ1.6t×2枚の鉄板を荷台に乗せ、アウトリガーのジャッキを縮めたところトラッククレーンが坂道を下りはじめ、後方で鉄筋をガスで溶断する作業をしていた者を後部タイヤでひいた。	30201	7	10～ 29
1999	2	13 ～ 14	材料置場で移動式クレーン付きトラックを使用して単管パイプを移動するときに、クレーンの作業半径を大きくとってしまい、またアウトリガーの張り出し巾が狭かったために、クレーンが横転し集積材とトラックのキャビン部の間に胸腹部をはさまれた。	30201	6	30～ 49
1999	1	13 ～ 14	貨物船からオレンジバケットを装着したクローラークレーンで鉄クズの荷揚げ作業中、突然ペンダントロープが切断してクレーンのブームが落下し、船上でクレーン運転手に合図をしていた者が落下したジブに直撃を受けた。	50202	6	50～ 99
1999	1	8 ～ 9	移動式クレーンで約5tの残材を10tダンプから荷降しするために残材を吊上げて旋回したところ、クレーンが転倒しキャビンと地面との間に挟まれた。	150109	2	50～ 99
1999	1	16 ～ 17	積載型トラッククレーンのアウトリガーを伸ばして車体の下に入り込み、足回り、ドライブシャフト等にグリスアップを行っていたところ回転していたPTOのドライブシャフトに、着用していたつなぎの作業着が巻き込まれ、窒息した。	30199	7	1～9
1999	1	10 ～ 11	護岸の石積み作業において、4トンダンプに積まれた2個の石のうち、1個を25t吊ホイールクレーンで吊り上げたところ、吊り荷がダンプの後部あおりに接触したため、反動で車体が揺れて荷台上のもう一つの石が倒れ、この石と左側あおりとの間に右足をはさまれた。	30107	7	30～ 49

---

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.html](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.html)(職場のあんぜんサイト)

Return to [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311\\_02.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202311_02.html)